

2022年度

シラバス



学校法人 湯梨浜学園

湯梨浜学園高等学校

〒689-0727 鳥取県東伯郡湯梨浜町田畠32-1

TEL (0858)48-6810 FAX (0858)48-6813

第 1 学年

教科名	国語	科目名	言語文化演習	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 上代から現代に亘る作品世界を正確に理解し、的確に処理し、豊かに表現できる力を養う。 ② 現代文学・古典文学への関心を高めるとともに、思想・思考の幅を広げ心情を豊かに育む。 ③ 表現技法や古典文法を学びながら言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストなどで評価。 ② 思考・判断・表現…定期考査、課題提出物、提出レポートや発表資料などで評価。 ③ 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表、探究学習などで評価。				
学習方法	① 知識の定着に努め、様々な作品に触れその特徴を理解した上で世界観の正確な把握を目指す。 ② 教科書・図説・関係資料等を用い、文法を根幹とした読解力を身につけ、古典に対する興味を喚起する。 ③ 発表資料作成や受験対策問題集等を用い、受験レベル問題の解法、古典の探究・文学作品批評など幅広く学ぶ。				
教科書・教材等	言語文化（大修館）さくらさく古文単語（浜島） プレミアムカラー国語便覧（教研）基本の古典（尚文）古文文法 助動詞徹底ワーク（尚文）自作テキストなど				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	復習及び発展内容 古文：「宇治拾遺物語」 ・田舎の児、桜の散るを見て泣くこと ・絵仏師良秀	表現の特徴を学ぶとともに古文の世界観を感じる。また、古文文法の助動詞・敬語について理解し深めていく。	12	10	古文：「方丈記」 ・行く河の流れ	作者の思想の基調や世界観をはじめ、対句表現や比喩などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	16
5	漢文：「蛇足」（戦国策） 「鶴鳴狗盗」（十八史略） 「臥薪嘗胆」（十八史略）	漢文調の文体や寓意的な表現に注意しながら内容を捉え、人物や思想、背景などを理解させる。句法や句形を習得する。 作品の構成・展開・表現技法を学ぶとともに、作品を通して、当時の人々の考え方を学ぶ。	16	11	古文：「伊勢物語」 ・初冠 ・月やあらぬ	歌物語の特徴の一つである和歌や表現技巧を理解する。また、当時の人々の生き方や文化、考え方などについて認識を深める。	16
6	小説：「羅生門」 古文：「今昔物語集」 卷第二九第一八	小説を読み味わい、描かれた人間の生き方や場面・心情の変化を表現に即して読み味わう。古の時代の人々が見、感じていた世界観を感じると共に、学び、活かせるようにする。また、古文文法・表現について理解し深めていく。	16	12	漢詩： 送汪倫／送元二使安西／過故人庄／月夜／香炉峰下 復習及び発展内容	唐代の詩人たちの人生観や自然観の認識を深め、漢詩独特の口調を修得する。また、近体詩の形式や表現等の技法を理解する。	12
7	短歌： 十二首 俳句： 十五句	俳句・短歌に興味をもち、作品内の情景や心情を読み味わう。自分の作品を仕上げ、俳句・短歌の大會への応募を叶える。	12	1	古文：「更級日記」 ・あこがれ	京や作品などへの強い憧れを抱く作者の心情を理解する。また、当時盛行していた思想を認識する。	12
8	復習及び発展内容		4	2	漢文： 雜説（韓愈）	当時の思想を読み解き、風刺に注意しながら内容を捉え、自然観・社会性・当時の人の考え方を感じ取る。また、句法を習得する。	16
9	小説：「青が消える」 漢文：「故事成語」 ・画竜点睛 ・糟糠之妻 ・塞翁馬	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 故事成語の叙述のおもしろさや意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。また、漢文の句法を習得する。	16	3	復習及び発展内容		12

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	4
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	①国語を適切に理解し的確に表現する能力を育成する。 ②伝え合う力を高めるとともに、様々な文章から思考、思想を読み取り心情を豊かにする。 ③言語感覚を磨き論理や思考に対する関心を深め、様々な資料をもとに自分の考えを適切に表現できる力を養う。				
評価の観点 評価方法	①知識・技能…定期考查、単元別テストなどで評価。 ②思考・判断・表現…定期考查、論文などの課題提出物、提出レポートや発表資料などで評価。 ③主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表、探究学習などで評価。				
学習方法	①知識の定着に努め、進度だけではなく、復習・発展にも重点をおき、確実な学習内容の把握に励む。 ②教科書・図説等を用い、読解力・文章作成能力を身につけ、国語に対する興味を喚起する。 ③自作教材やサブテキスト等を用い、教科書の単元だけでなく実力向上を目指し、古典の探究・検定試験学習・プレゼンテーションへの取り組みなど多岐にわたり文章と触れ合う。				
教科書・教材等	論理国語（大修館）※予定 現代文グレートラーニング40 レベル2（尚文） 自作テキストなど				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	評論：「システムとしてのセルフサービス」	筆者の構造的な文体を論理的に読み取り、構成・展開・要旨などを的確に理解する。	6	10	評論：「コミュニティから見た日本」	筆者の主張や内容を捉えさせ、近代社会の方法論について読解を深めるとともに、抽象的・概念的な用語や表現を理解する。	8
5	評論：「分かち合う社会」	筆者の考察を読み取り、社会や科学への理解を深める。文章を批判的に読むことを通して、自分の考えを深め、表現できる力を養う。	8	11	評論：「世界は、いま—多文化社会の構築」	筆者の主張や内容を捉えさせ、近代社会の方法論について読解を深めるとともに、抽象的・概念的な用語や表現を理解する。	8
6	評論：「生命情報・社会情報・機械情報」	文章の構成や、段落相互の関係を読み取らせ、筆者の主張や内容をとらえ、読解力・要約力を高める。	8	12	評論：「猫は後悔するか」	これまでの学習成果を踏まえ、論理的で哲学的思考の強い文章を的確に理解し、要約できる力を身につける。	6
7	復習及び発展内容 課題探究レポート作成		6	1	入試問題演習 小論文演習	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。	6
8	復習及び発展内容 課題探究レポート作成		2	2	入試問題演習 小論文演習	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。	8
9	評論：「あらわれと消え去り」	文章の構成や、段落相互の関係を読み取らせ、筆者の主張や内容をとらえ、読解力・要約力を高める。	8	3	入試問題演習 小論文演習	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。	6

備考 ①副教材を活用した問題演習も、授業中に行う。 ②適宜、論文指導を行う。

教科名	国語	科目名	現代の国語演習	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理・共感・想像の力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。その力を各種文芸コンテスト、検定に活かすことが出来る。 ③ 論理的思考力を養う文章、実社会に必要な文章を基に考えをまとめ、他者に分かりやすく表現できる。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考查、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。						
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を身に付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。						
教科書・教材等	現代の国語（大修館） 現代文グレートラーニング40レベル2（尚文） キーワードの卵（尚文） プレミアムカラー国語便覧（教研）など						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「白紙」 「伝える・伝え合う」	文章を読み論の進め方や表現について理解し、自分の考えを持てるようにする。 他者と意見を交わし、思考を膨らませることの基本を学ぶ。	15	10	「言葉についての新しい認識」 「社会への視点②」 さまざまな広告	言語文化に関する文章を読み、文化・習慣の違いを対比しながら認識する。また、要約力を高める。 社会に溢れる様々なメッセージを正しく解釈する。	20
5	「木の東西」 「わかりやすく書く」	文章の論理の展開の仕方を的確に捉え、内容を理解し、必要な情報を集め、要約する。 他者に意見を伝える際の文章のまとめ方を学ぶ。	20	11	「贅沢を取り戻す」 復習及び発展内容	本文から、現代社会の抱える問題点を掴み課題解決の道を模索する力を養う。 全国模試の対策を行う。	20
6	「『安くておいしい国』の限界」 「社会への視点①」 さまざまな規約	筆者の問題提起とその論拠について自分の意見をまとめる。 広い視野を持ち現代社会を捉える。	20	12	「作業ロボットの悲劇」 復習及び発展内容	論理の展開を理解し、主張を読み取る。また、主体的に論理的な文章に触れ合う習慣を身に着け、他者に内容を伝える力を養う。 全国模試の対策を行う。	15
7	「美しさの発見について」「脳は美をどうとらえるか」	情報を比較しながら、文章を読むことが出来るようになる。	15	1	「インターネット時代の音楽産業」 復習及び発展内容	統計資料を基に自分の意見を他者に伝えることが出来るようになる。また、説得力を持った論を展開するための資料作りが出来るようになる。 全国模試の対策を行う。	15
8	復習及び発展内容		5	2	入試問題演習	共通テストや大学入試の過去の問題を解き進めることで、培った自分の国語の力を発揮できるようにする。	20
9	「空気を読む」 「『個人』から『法人』へ」	評論の内容を吟味し、描かれた内容に対する捉え方の変化を読み味わう。 筆者の意見に対して自分の考えを持ち、文章に表現できるようにする。	20	3	入試問題演習	共通テストや大学入試の過去の問題を解き、自分の課題や伸ばしたい能力について考える。その後、国語を学ぶ計画を立てることが出来る。	15

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。 ・適宜、書写の授業を行う。

教科名 対象	地理歴史 高校1年	科目名 履修形態	歴史総合 必修	単位数 授業形態	2 一斉
学習の到達目標	① 18世紀以降の世界と日本の歴史的事象を考察する手がかりとなる概念・理論を習得する。 ② 習得した基本的な考え方を活用し、考察できる。 ③ 時系列・諸事象展開や変化・事象の比較・事象の背景や結果などに着目し、歴史的事象を比較したり関連させたりする。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考查、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期考查、書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ 資料や文章史料をテーマに沿って読み取り、要点をまとめる。				
教科書・教材等	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社） 現代の歴史総合 みる・読みとく・考えるノート（山川出版社）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	世界のつながり 歴史の扉	現代の生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解する。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取れる情報や特色を表現する。	6	10	第4章 経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌と各国の対応を理解する。 ファシズムの台頭、日本の対外政策の変化などが国際協調の動搖となつたことを理解する。 第二次世界大戦の性格と惨禍、戦時中の社会状況や人々の生活を理解する。	8
5	第I部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界と日本の開国 第2章 国民国家と明治維新	近代化の変化の例を挙げ、説明できる。 産業革命と交通革命、中国の開港や日本の開港などを基に、世界市場が形成されたことを理解する。 18世紀後半以降の欧米の市民革命やナショナリズムの動向を理解する。	8	11	●国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 ①対立・協調 ②統合・文化 ③平等・格差	国際連合の特色と国際経済体制を理解する。 冷戦の始まりとアジア諸国の動向を理解する。 日本に対する占領政策の変化、また日本の独立の流れを理解する。 国際秩序の変化や大衆の歴史について多面的・多角的に考察・表現する。	8
6		明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解する。 列強の帝国主義政策と、その下でのアジア諸国の変容を理解する。	8	12	第III部 グローバル化と私たち 第5章 冷戦と世界経済	グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問い合わせを表現する。 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国など第三の世界の台頭を理解する。 冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張など国際政治の変容を理解する。	6
7	●近代化と現代的な諸課題 ①開発・保全 ②対立・協調 ③自由・制限	現代社会においても調整が求められるような、近代化の歴史について多面的・多角的に考察・表現する。	6	1	第6章 世界秩序の変容と日本	石油危機による市場経済の変容と課題を理解する。 NIES、ASEANなどの急速な経済成長、日米貿易摩擦を理解する。 経済が立ち遅れた社会主義国の市場開放を理解する。 IT革命により、市場経済のグローバル化が一層進んだことを理解する。	6
8	第II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	国際関係の緊密化、アメリカとソ連の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化など、諸資料から読み取る。	2	2		冷戦の終結とその背景、ソ連の解体のその影響を理解する。 民主化や地域統合の背景と影響を理解する。 地域紛争の拡散の背景と影響を理解する。	8
9	第3章 総力戦と社会運動	第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴を理解する。 戦後の日本やその他の国の社会の変化と社会運動（大衆運動）との関連を理解する。	8	3	●現代的な諸課題の形成と展望	持続可能な社会の実現を目指し、主題を設定し、資料の収集・分析、考察・構想、振り返りを行う。	6

備考

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 地理的な見方・考え方を習得することができる。 ② 修得した見方・考え方を働かせ、各地域の特徴をまとめることができる。 ③ 地理的な見方・考え方を働かせる活動を通して、国際社会に主体的に生きる公民としての資質や能力を身につけることができる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期検査、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期検査、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度・授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ webGIS等を活用し、主題図をテーマに沿って読み取る。				
教科書・教材等	地理総合 世界に学び地域へつなぐ（二宮書店）新詳高等地図（帝国書院） 地理総合ワークブック（二宮書店）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 地図とGISの活用 第1節 球面上の世界	地球上の位置情報の基礎を身につける。 図法によって異なる地図の特色をつかみ、世界における日本の位置を理解する。	6	10	第3章 世界各地の生活文化 第1節 東アジア 第2節 ASEAN諸国 第3節 南アジア 第4節 イスラーム圏 第5節 アフリカ 第6節 EUと周辺諸国 第7節 ロシア	民族・経済・貿易・宗教・開発などの観点から各地域をとらえ、地域に存在する課題を理解する。	8
	第2節 日本の位置と領域	日本が抱える周辺諸国間での領有権問題や海洋資源利用について考える。					
5	第3節 国内や国家間の結びつき 第4節 暮らしの中の地図とGIS	交通・通信・貿易・観光の各視点から、人や物・サービスの移動の様子について、資料を読み取って理解する。 GISの特徴を理解した上で、作成した地図を重ね合わせ、該当する地域の特徴を考察する。	8	11	第3章 世界各地の生活文化 第8節 アメリカ・カナダ 第9節 ラテンアメリカ 第10節 オセアニア 第4章 地球的課題と国際協力 第1節 地球環境問題 第2節 資源・エネルギー	民族・経済・貿易・宗教・開発などの観点から各地域をとらえ、地域に存在する課題を理解する。 地球環境問題について、将来予測図などを踏まえて、解決の取り組みを考える。 資源の分布の偏在性や国家間格差、将来的な課題について理解する。	8
	第2章 地理的環境の特色 第1節 地形と生活文化	大地形の広がりが、プレートテクトニクスによるプレート境界と関連し、さまざまな地形を形成していることを理解する。			第4章 地球的課題と国際協力 第3節 人口・食料問題 第4節 居住・都市問題	人口が集まる都市の特徴や、先進国・途上国での違いを理解する。 都市問題を解決するため、各国が採ってきたこれまでの取り組みを理解する。	
6	第2節 気候と生活文化	大気や海流の循環のしくみを理解する。	8	12	第5章 生活圏の諸課題 第1節 日本の自然災害と防災	資料・主題図をもとに、日本列島における災害リスクを引き起こす要因となる事象を理解する。 風水害・火山災害・地震・津波・都市型災害の具体的な事例を、新旧地形図やハザードマップ、電子地図の読み取りを通して理解する。	6
	第3節 産業と生活文化	第1次産業・第2次産業の地域的な特徴を理解する。					
7	第2節 気候と生活文化	世界の気候を、ケッペンの気候区分をもとに理解する。 雨温図・ハイサークグラフ・写真資料から、各地域の生活文化の特徴を理解する。	6	1	第5章 生活圏の諸課題 第1節 日本の自然災害と防災	自然災害への備えをどうすればよいかを考え、減災意識を向上させる。 GISを活用し、災害発生の可能性がある際の被害回避の方法や、減災の方法を提案する。	6
8	第3節 産業と生活文化	第3次産業の地域的な特徴を理解する。	2	2	第5章 生活圏の諸課題 第1節 日本の自然災害と防災	日本が抱える地域的課題について、主題図を適切に読み取る。	6
	第4章 宗教と生活文化	宗教・言語分布や人々とのかかわりを、主題図などの資料を通して理解する。					

備考

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 現代の諸課題を考察する手がかりとなる概念・理論を習得し、諸資料をもとに現在の問題を考えることができる。 ② 習得した基本的原理を活用し、事実をもとにしてさまざまな角度から考察できる。 ③ 現代の諸課題を主体的に解決しようとすることができる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期考査、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ 諸資料をテーマに沿って読み取る。				
教科書・教材等	公共（東京書籍） 公共ワークノート（東京書籍）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1部 「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち	青年期の特徴や発達過程について理解する。 日本・世界の思想家の考え方や「公」と「私」のとらえ方を理解する。	6	10	第3章 経済社会で生きる私たち 第4章 私たちの職業生活	財政のしくみ・租税や国債の役割・社会保障の意義と現状について、実際の事象と関連付けて理解する。 働くことの意義・労働市場の役割・キャリア形成の課題について理解する。	8
5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 第3章 公共的空間における基本的原理	ベンサムの功利主義・ミルの内的強制力、徳倫理学の考え方、カントの義務論、ロールズの考え方を理解する。 民主主義・法の支配の意義や、人間の尊厳と平等における歴史的展開を理解する。	8	11	第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会の中で生きる私たち	労働契約の特性・労働三法の内容・日本の労働問題について、実際の事象と関連付けて理解する。 国際法の意義と役割・集団安全保障のしくみ・国際連合の役割などを理解する。	8
6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	地方自治・国会・内閣の役割と権限を、実際の政治事象を手掛かりにして理解する。 行政の肥大化、日本の選挙制度の課題、政党・政治資金の課題、ネット時代の世論形成と課題を理解する。	8	12	第5章 国際社会の中で生きる私たち	冷戦後の安全保障政策、紛争との要因・難民問題の発生と解決に向けた取り組みを理解する。	6
7	第2章 法の働きと私たち	社会規範上の法の特色、裁判における法の適用と解釈、私法の三つの原則を理解する。 消費者保護法制や契約の特徴を理解する。	6	1	第5章 国際社会の中で生きる私たち	国際収支統計の意味・リカードの比較生産費説が理解できる。 為替のしくみ・国際金融の動向について、実際の経済的事象と関連付けて理解できる。	6
8	第2章 法の働きと私たち	司法権の成立過程、裁判制度のしくみ、違憲審査制について理解する。	2	2	第5章 国際社会の中で生きる私たち 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	南北問題の背景と推移、人口問題、格差の是正に向けた取り組みを理解する。 第1章・第2章であったテーマから1つ選択し、課題を設定し、レポートを書く。	8
9	第2章 法の働きと私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	刑事司法のしくみ、検察審査会制度について理解する。 経済主体と経済循環について実際の経済事象と関連付けて理解する。	8	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	第1章・第2章であったテーマから1つ選択し、課題を設定し、レポートを書く。	6

備考

教科名	数学	科目名	数学I(数学ⅠⅡ)	単位数	3		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別		
学習の到達目標	① 高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数について理解すること。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。 ③ 数学的知識を活用し、表現できる力を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。						
教科書・教材等	高等学校 数学II(教研出版) 改訂版 4 STEP 数学II+B(教研出版)、チャート式基礎からの数学II+B(教研出版)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学II> 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と 2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	数の広がりを複素数まで学び、数の知識、理解を深める。 解と係数の関係で解に関するいろいろな問題が処理できるようになる。	9	10	3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用	三角関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 三角関数の方程式や不等式の理解を深める。	12
5	第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点	剰余の定理を用いて、余りを求めることができるようにする。 高次方程式の理解を深める。 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようになる。	12	11	第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	三角関数の加法定理を理解し、応用分野まで発展する。	12
6	3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線	円の方程式、円と直線との関係を見い出し、理解を深める。	12	12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解する。	9
7	7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式	2つの円の位置関係を条件より求めができるようになる。 与えられた条件を満たす点の軌跡を式で表せるようになる。	9	1	第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と 極大・極小 5. 関数の増減・グラフの 応用	微分と積分法の関係を理解し、増減表、グラフの応用まで活用できるようする。	9
8	■図形と方程式問題演習		3	2	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解する。定積分は定数であることを理解し、それをを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 積分と面積の関係を理解し、活用できるようする。	12
9	9. 不等式の表す領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数	不等式を満たす点の集合が、平面上のある領域を表すことを理解する。 一般角や弧度法を理解し、それを用いて三角比が求められるようになる。	12	3	問題演習		9

備考

教科名	数学	科目名	数学A(数学B)	単位数	3
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 指数・対数関数、数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習得を図る。 ② 事象を数学的に考察し、処理する能力を育てる。 ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識できる。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、「ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。				
教科書・教材等	改訂版 高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学II(数研出版) 改訂版 4STEP 数学II+B(数研出版)、チャート式基礎からの数学II+B(数研出版)				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学II> 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。また、累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができる。また、指数関数のグラフの概形を理解し置き換えによって方程式や不等式を解くことができる。	9	10	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	12
5	第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	対数と対数を相互に置き換えることができる。定義を理解し、公式を利用できる。 対数関数のグラフから、対数関数の性質を理解し、それらを用いた問題が解けるようにする。 常用対数の有用性を理解し、桁数の問題が解けるようにする。	12	11	5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 空間ベクトルを利用して、線分の長さ、分点の座標などを考察できる。	12
6	<数学B> 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。	12	12	<数学B> 第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項	数列の定義・表記を理解し、関連する用語を適切に用いることができる。数の並びからその規則性を推定して、数列の一般項を考察できるようにする。	9
7	3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができるようになる。ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めるができるようになる。	9	1	2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	初項と公差を文字を使って表すことが出来るようになる。また、和の公式を適切に利用できるようになる。 初項や公比を文字をつかって表すことができるようになる。また、和の公式を適切に利用できるようになる。	9
8	第2節 ベクトルと平面图形 5. 位置ベクトル	位置ベクトルを導入し、線分の内分点、外分点の位置ベクトル、三角形の重心の位置ベクトルを求めることができるようになる。	3	2	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 数列の規則性の発見に階差数列を利用でき、もとの数列の一般項が求められるようになる。 和の求め方を工夫し、数列の和を求められるようになる。群数列を考察できるようになる。	12
9	6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを用いて、始点の変更による式変形ができるようになる。線分上の点を、線分を $s : (1-s)$ に内分する点として処理できるようになる。	12	3	第3節 数学的帰納法 9. 減化式 10. 数学的帰納法	基本的なパターンの漸化式の問題が素早く解けるようにし、文章から式をたてることができるようにする。 数学的帰納法の考え方を理解し、等式や不等式の証明ができるようになる。	9

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探求する能力や態度を高める。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	物理基礎(教研出版) センサー総合物理(啓林館)				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔物理基礎〕 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度	・速度について理解し、求めることができる。 ・加速度について理解し、求めることができる。	6	10	4. 力学的エネルギーの保存	・様々な運動に対しエネルギー保存、エネルギーと仕事の関係を理解する。	8
5	3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそれはたらき 2. 力のつりあい	・状況に応じて、等加速度運動の公式を書き換えることができる。 ・力の定義を正確に理解し、物体にはたらく力を描くことができる。 ・力のつりあいの式を立て、解くことができる。	8	11	第2編 熱 第1章 热とエネルギー 1. 热と熱量 2. 热と物質の状態	・温度の定義を確認し、熱エネルギーとの関係を学び、熱量保存則を理解する。 ・状態変化を熱エネルギーから考察し、潜熱を求めることができる。	8
6	3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動	・物体の運動方程式を解き、加速度や速度を求めることができる。 ・状況に応じて摩擦力を判断し、記述することができる。	8	12	3. 热と仕事 4. 不可逆変化と熱機関	・熱力学第一法則を理解する。 ・熱機関のはたらきを理解し、熱効率を求めることができる。	6
7	5. 液体や気体から受ける力	・圧力や浮力の発生原理について理解し、適切に公式が使える。	6	1	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波の媒質と振動	・波の分野で新たに導入される波長、振動数、周期などの定義を理解し、波を考察する。 ・任意の座標や時間、y-xグラフおよびy-tグラフを描くことができる。	6
8	第3章 仕事と 力学的エネルギー 1. 仕事	・仕事の定義を理解し、仕事を正確に計算することができる。	2	2	2. 波の伝わり方	・重ね合わせの原理や定常波について理解する。 ・自由端、固定端の時の波の反射について理解し、合成波を描くことができる。	8
9	2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー	・運動、弾性、位置エネルギーなどの力学的エネルギーを理解する。	8	3	第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振共鳴	・音を波として考察し、それによって理解ができる現象があることを知る。	6

備考

教科名 対象	理科 高校1年	科目名 履修形態	生物基礎 選択	単位数 授業形態	2 一斉
学習の到達目標	①生物や生物現象についての概念や原理・法則を理解する。 ②自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。				
評価の観点 評価方法	①知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ②思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	①授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ②授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	生物基礎(東京書籍)、生物(東京書籍) センサー総合生物(啓林館)				

年間授業計画						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい
4	〔生物基礎〕 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生命活動とそれを支えるエネルギーについて理解する。 ・酵素反応の実験観察を行う。	6	10	2. 腎臓と肝臓 3. 神経とホルモンによる調節	・腎臓と肝臓のはたらきを理解する。 ・神経とホルモンによる情報伝達と分泌調節のしくみを理解する。
5	3. 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とそれはたらき	・光エネルギーを化学エネルギーに変える光合成と生命活動に必要なエネルギーを取り出す呼吸について理解	8	11	4. 免疫	・免疫によるたくみな生体防御のしくみを理解する。
6	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現	・DNAの構造と遺伝情報の関係について理解する。 ・DNA模型を作製する。 ・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。	8	12	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移	・陸上でみられるさまざまな植生について理解する。 ・植生が移り変わる過程とそのしくみについて理解する。
7	3. 遺伝情報の分配	・遺伝情報の分配と分配された遺伝情報について理解する。 ・体細胞分裂の実験観察を行う。	6	1	3. 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 物質循環とエネルギーの流れ	・気候ごとの植生と生物のまとまりを理解する。 ・生態系の成り立ちや生物どうしのつながりを理解する。 ・炭素の循環に伴ってエネルギーが移動していることを理解する。 ・窒素の循環について理解する。
8	代表的な例題を用いた問題演習	・生物の特徴及び遺伝子のはたらきに関する問題演習により内容理解を深める。	2	2	3. 生態系のバランス 4. 人間生活と生態系の保全	・生態系のバランスとは何かを考える。 ・生態系に及ぼす人間活動の影響と生態系の保全の重要性について考える。
9	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液という体内環境	・細胞が安定した生命活動を維持できるしくみを理解する。	8	3	代表的な例題を用いた問題演習	・生物の体内環境、植生の多様性と分布、生態系とその保全に関する問題演習により内容理解を深める。

備考

教科名	理科	科目名	化学基礎(理系)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようになる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍)、化学(東京書籍) センサー総合化学(啓林館)、オリジナルテキスト				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔化学基礎〕 第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応	・電子の授受による酸化還元の定義を学ぶ。 ・酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。 ・金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。 ・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気会の原理を学ぶ。	6	10	2. 希薄溶液の性質 3. コロイド	・蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下などの溶液の性質を学ぶ。 ・コロイドの性質を学ぶ。	8
5			8	11	第4章 固体の構造 1. 結晶 2. 金属結晶の構造 3. イオン結晶の構造 4. その他の結晶と非結晶	・結晶の成り立ちとその構造について学ぶ。 ・金属、イオン結晶格子について学ぶ。 ・アモルファスについて学ぶ。	8
6	〔化学〕 第1編 物質の状態と平衡 第1章 物質の状態 1. 物質の三態 2. 気体・液体間の状態変化	・熱運動と三態について学ぶ。 ・分子間力と状態変化について学ぶ。	8	12			6
7	第2章 気体の性質 1. 気体 2. 気体の状態方程式	・体積、温度、圧力など気体に共通する法則について学ぶ。 ・理想気体の状態方程式について学ぶ。 ・理想気体と実在気体の違いについて学ぶ。	6	1	第2編 化学反応とエネルギー 第1章 化学反応と熱・光 1. 反応熱と熱化学方程式 2. ヘスの法則	・熱化学反応式を学ぶ。 ・ヘスの法則を学ぶ。 ・結合エネルギーを学ぶ。	6
8			2	2			8
9	第3章 溶液の性質 1. 溶解	・溶解の仕組みや溶解量について学ぶ。	8	3	第2章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡の移動	・化学平衡の法則を各平衡状態において考察する。 ・ルシャトリエの原理を学ぶ。	6

備考

教科名	理科	科目名	化学基礎(文系)	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)、オリジナルテキスト						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔化学基礎〕 第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・電子の授受による酸化還元の定義を学ぶ。 ・酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。 ・金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。 ・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気会の原理を学ぶ。 	6	10			8
5			8	11	原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
6	〔化学基礎〕 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 元素の性質と周期律	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	12			6
7			6	1	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和滴定	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6
8			2	2	酸化と還元 酸化算と還元剤 金属と酸化還元反応 電池・電気分解	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
9	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 物質の分類	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	3			6

備考

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	①自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ②科学的調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点評価方法	①知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ②思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	①授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ②授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	科学と人間生活(第一学習社)、化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)				

年間授業計画						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい
4	第1編 物質の構成元素 第1章 物質の構成元素 1. 物質の成分 2. 物質の構成元素 3. 物質の三態	・物質の分類や分離、生成方法を学ぶ。 ・单体、化合物、元素の概念を学ぶ。 ・物質の状態変化について学ぶ。	6	10	2. 物質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係	・物質量とその単位「mol」について学ぶ。 ・気体の密度について学ぶ。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の求め方を学ぶ。 ・化学反応における物質の量的関係を物質量を用いて学ぶ。
				8		
			8	11		
5	第2章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質	・原子の構造、電子配置と原子の性質との関係性を学ぶ。 ・元素の周期律と元素の性質を学ぶ。	8	12		
				6		
6	第3章 化学結合 1. イオンとイオン結合 2. 分子と共有結合	・イオン結合のでき方と性質を学ぶ。 ・共有結合のでき方と性質、配位結合について学ぶ。 ・電気陰制度と分子の極性について学ぶ。	6	1	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の定義や性質、反応について学ぶ。
				6		
7	3. 金属と金属結合 4. 物質の分類	・金属結合のでき方と性質について学ぶ。 ・ファンデルワールス力と水素結合について学ぶ。 ・物質の分類方法を学ぶ。	2	2	3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定	・酸と塩基の強さと、水素イオン濃度の関係を学ぶ。 ・水の電離とpHについて学ぶ。 ・中和反応および塩の種類と性質を学ぶ。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を学ぶ。
				8		
8	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量	・相対質量の概念を学ぶ。 ・物質のモル質量の求め方を学ぶ。	8	3		
				6		

備考

教科名	理科	科目名	化学基礎(外進)	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 化学の基本的な概念や原理・法則の理解・・・小テストや定期考査で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)、オリジナルテキスト						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	【化学基礎】 第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 電子の授受による酸化還元の定義を学ぶ。 酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。 金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。 電池の性質を学ぶ。 水溶液の電気分解の原理を学ぶ。 	6	10	原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
5			8	11			8
6	【化学基礎】 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 元素の性質と周期律	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	12			6
7			6	1	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和滴定	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6
8			2	2	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属と酸化還元反応 電池・電気分解	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
9	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 物質の分類	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	3			6

備考

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。 ② 音楽に関する感性を高める。 ③ 創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
評価の観点 評価方法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。				
学習方法	① 腹式呼吸による発声練習を通じ、中学時に身についた能力をさらに伸張する。 ② 基本的な楽典を学び、視唱（奏）力を身に付ける。 ③ 器楽による独奏・合奏。 ④ 作品の時代・文化背景を知り、世界の音楽をより深く理解・鑑賞し、多様性を学ぶ。				
教科書・教材等	Tutti改訂版（教育出版社）				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	豊かな表現を目指した歌唱 「Caro mioben」 「Sing」 「Danny Boy」 「The Sound of music」 「Happy birthday to you」	英語曲の学習による、難易度の高い演奏に重きを置く。	6	10	鑑賞 日本と世界の諸民族の音楽鑑賞 オペラ・アジアの音楽 日本の音楽・ジャズ	歴史・文化・風土を含め、より深く、作品についての深い理解を目指す。各国の多様性と幅広い価値観を理解させる。 * 9月からの継続	8
				8	11	「少年時代」「世界に一つだけの花」「四季の歌」	
6	器楽 ギター 「クリーガーのメヌエット」「グリーンスリーブス」	鑑賞活動との関連を図りながら楽器の特徴や奏法の違いを体験的に理解し、美しい音色を求め演奏させる。	8	12	美しいハーモニーを目指す 3部合唱 「COSMOS」「道」	調和するハーモニーを目指し、まとまりを大切にしながら作品を作り上げさせる。	6
				6	1	音楽発表会にむけてのグループ練習	
8	鑑賞 日本と世界の諸民族の音楽鑑賞 オペラ・アジアの音楽 日本の音楽・ジャズ	歴史・文化・風土を含め、より深く、作品についての深い理解を目指す。各国の多様性と幅広い価値観を理解させる。	2	2			8
				8	3	音楽発表会 グループ・個人による音楽発表会と相互評価 「卒業式関連唱歌」	1年を通して身につけた技術・表現力で、個々の個性を生かした歌唱・合唱・器楽等を行う。 発表会形式の実技試験を行う。

備考：曲目は変更される場合があります

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	①表現および鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛する心情を育てる。 ②感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。				
評価の観点 評価方法	①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の學習に取り組もうとする。（美術への関心・意欲・態度） ②感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。（発想や構想の能力） ③感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。（創造的な技能）				
学習方法	個人制作と一斉授業。				
教科書・教材等	高校美術 I (日文) 水彩用具、スケッチブック、資料、など				

年間授業計画						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい
4	鉛筆で静物、風景、人物を描く。	対象をよく観察して形、明暗、量感、質感などを描写する。	6	10	水彩で静物、風景を描く。 * 9月の内容の継続	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。
				11	シナ材の板、石などから彫刻刀を使って掘り出す。	想像力を働かせて、自分らしい表現ができたか、最後まで仕上げることができたかどうかをみていく。
				12		
7	色鉛筆で静物、風景を描く。	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。	6	1	デザインを表現する。	イラストレーションの表現方法を工夫して描く。
				2		
8						
9	水彩で静物、風景を描く。	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。	8	3	鑑賞する。	洞窟絵画から現代美術まで、美術の流れの概要を理解する。

備考

教科名 対象	保健体育 高校1年	科目名 履修形態	体育 必修	単位数 授業形態	2 一斉
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことをができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	①忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ②各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	①集団行動 ②基礎的・合理的な運動の実践				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。	6	6 10	卓球	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
5	陸上競技	スポーツの歴史、文化的特性のスポーツの特徴について理解できる。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。	8	8 11	バレー ボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
6			8	12			6
7	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6	6 1	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6
8			2	2	パドミントン	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
9			8	3			6

備考

教科名 対象	保健体育 高校1年	科目名 履修形態	保健 必修	単位数 授業形態	1 一斉
学習の到達目標	①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	①忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ②保健分野における知識をテストによって総合的に評価する。 ③各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	①教科書・資料を用いた学習				
教科書・教材等	新保健体育 改訂版（大修館書店）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	健康の考え方	健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかかるこ	3 10	4 11	交通安全	交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかかること。また交通事故には責任や賠償問題が生じること。	4
5	健康の保持増進と疾病的予防	健康の保持増進と生活習慣病の予防には食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられるこ	4 12	3 1	応急手当	適切な応急手当は、傷害や疾病的悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。	3
6	精神の健康	人間に欲求と適応機制には様々な種類があること。精神と身体には、密接な関連があること。また精神の健康の保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であるこ	4 3	1 2			4 3

備考

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ② 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。				
評価の観点評価方法	① 思考・判断・表現…出席と授業態度、提出物から評価する。 ② 知識・技能…ワークシート等や実技試験とともに評価する。 ③ 主体的学习に取り組む態度…提出物、実習での様子、振り返りレポートなどから評価する。				
学習方法	① 教室での一斉授業で内容を理解する。 ② 調理実習などの実習により、体験の中で実践的な態度を身につけていく。				
教科書・教材等	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）				

年間授業計画						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	・充実した人生を送るために、自分らしいライフスタイルの形成に関心をもつ。	6	10	第8章 住生活をつくる 第3章 子どもと共に育つ	・住生活において、今後必要となる事象を理解する。 ・子どもについて学習し、大人の役割を自覚する。 ・子どもに迫る危険について学習し、子どもたちを守るものとしての自覚を育てる。
5	第6章 食生活をつくる	・栄養、食品、調理、食品衛生について学習をし、健康的な食生活を送る為の知識を身につける。	8	11	第3章 子どもと共に育つ	・これからの保育環境について、私たちが何をすべきかという課題について考える。
6	第6章 食生活をつくる	・調理実習を行い、技術を習得する。	8	12	第4章 超高齢社会を共に生きる	・高齢者の心身の特徴・生活・福祉について学習し、高齢者の生活を支える為の役割について考える。
7	第7章 衣生活をつくる	・被服の機能に関心をもち、洗濯等の適切な被服管理の方法を学ぶ。 ・被服管理実習を行い、基本的な技術を習得する。	6	1	第5章 共に生き、共に支える 第9章 経済生活を営む	・我々を取り巻く社会保障のしくみや、生活と福祉とのかかわりを理解する。 ・財やサービスを購入するにあたっての契約の意義や、支払方法について理解する。
8	第7章 衣生活をつくる	・被服の機能に関心をもち、洗濯等の適切な被服管理の方法を学ぶ。 ・被服管理実習を行い、基本的な技術を習得する。	2	2	第9章 経済生活を営む	・生涯における経済生活の見通しを立てる。 ・消費者における権利と責任の関係を理解する。
9	第8章 住生活をつくる	・部屋の設計を通して、動線や作業効率をふまえた住居計画を理解する。 ・住居が持つ機能を理解する。	8	3	第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	・SDGsの達成に向けて、自分たちで取り組める家庭生活上の改善策を考える。 ・これまでの学習を振り返り、望ましい生活について考えること。

教科名	情報	科目名	情報I	単位数	2
対象	高1	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 情報に関する科学的な見方・考え方を働きかせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
評価の観点 評価方法	① 情報への関心・意欲・態度。 ② 情報を適切に収集・処理・発信させるための基礎的な知識の理解。 ③ 授業態度、課題の内容と出席状況、総合演習の内容。				
学習方法	① 教科書の解説と問題演習 ② PCルームでの実習				
教科書・教材等	情報I(日本文教出版) 情報Iサブノート(日本文教出版)				
年間授業計画					
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容
4	第1章 第1節 情報の特性 第2節 メディアの特性 第3節 問題解決の考え方	情報の特性を考える メディアの特性を考える 問題解決の考え方を身につける	6	10	第2節 アルゴリズムとプログラム
					変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する 配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する
5	第4節 法の重要性と意義 —著作権 第5節 法の重要性と意義 —個人情報 第6節 情報社会と情報セキュリティ 第7節 情報技術の発展による生活の変化	著作権侵害について考える 個人情報について考える サイバー犯罪について考える ソーシャルメディアの適切な活用方法を身につける	8	11	第3節 モデル化とシミュレーション
					モデル化とシミュレーションの考え方を理解する プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする
6	第8節 情報技術の発展による社会の変化 第2章 第1節 メディアとコミュニケーション	情報技術の発展と社会の変化を考える メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する 情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する	8	12	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ
					コンピュータネットワークの構成を理解する データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する 暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する
7	第2節 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する	6	1	第2節 情報システムとデータベース
					情報システムが社会をどのように支えているか理解する データベースの役割について理解する
8	第3節 情報デザイン	情報デザインの考え方を知る 情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する	2	2	第3節 データの活用
					データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する 数値データ、テキストデータの分析方法を理解する
9	第3章 第1節 コンピュータの基本的な構成を理解する 第2節 アルゴリズムとプログラム	コンピュータの基本的な構成を理解する CPUによる演算のしくみを理解する アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る	8	3	まとめ

備考

教科名 対象	外国語 高校1年	科目名 履修形態	コミュニケーション英語I, II 必修	単位数 授業形態	3 習熟度別		
学習の到達目標	① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解できるようする。 ③ 英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。						
評価の観点 評価方法	① 英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身につけているか。（知識・技能） ② 目的や場面、状況等に応じて、慣れ親しんだ語句や表現を使って、話される内容を理解したり、自分の考え方や気持ちを表現したりしているか。（思考・判断・表現） 英語を通して自分の考え方や気持ちを伝えあうことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組み、問題解決の過程を振り返って改善しようとするとする態度を身につけているか、自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけているか。（主体的に取り組む態度）						
学習方法	① 予習にて、本文理解に必要な語彙や文法事項を確認しておく。 ② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。 ③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、積極的に教科書内容に触れる。 ④ 英語を通して、情報や主張・意見を的確に理解できるよう復習に努める。						
教科書・教材等	教科書 ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I, PROMINENCE Communication English II(東京書籍) GRAMMARMASTER (Z会出版), 速読英単語必修編 (Z会), 速読英熟語 (Z会)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	ENRICH LEARNING I Unit1 What can happen in one second?	学校新聞の記事などを通して、1秒間に世界で起こっていることについて学ぶ。 受身／不定詞／動名詞	9	9	ENRICH LEARNING I Unit5 Why do people tell each other stories?	ウェブの記事などを通して、自分が体験したことを開き手に語る際の秘訣を学ぶ。 SVOC(分詞)／関係副詞how／助動詞の過去形	12
5	ENRICH LEARNING I Unit2 What do superstitions mean to you?	機内誌の記事などを通して、さまざまな国や地域で信じられている迷信について学ぶ。 助動詞+受身／現在完了進行形	12	11	ENRICH LEARNING I Unit6 What are the qualities of a good leader?	オンライン百科事典の伝記などを通して、優れたリーダーシップを持つ人物の経歴を学ぶ。 分詞構文／関係副詞where(when/why)	12
6	ENRICH LEARNING I Unit3 How can we promote sustainability?	Eメールのやり取りなどを通して、ゼロ・ウェイスト政策について学ぶ。 分詞の形容詞的用法／関係代名詞	12	12	冬期集中講座		9
7	夏期集中講座		9	1	ENRICH LEARNING I Unit7 Where will you live in the future?	英字新聞の記事などを通して、今住んでいる場所を選んだ理由やそこでの暮らしの魅力について学ぶ。 原形不定詞／仮定法過去完了／過去完了進行形	9
8			3	2	ENRICH LEARNING I Unit8 How do cultures and traditions affect teens' lives?	ウェブ記事などを通して、世界中のさまざまな成人の儀式について学ぶ。 関係代名詞what／関係代名詞の非制限用法	12
9	ENRICH LEARNING I Unit4 What can we learn from native Hawaiians?	博物館のパンフレットなどを通して、ハワイ語やハワイ文化の歴史について学ぶ。 現在完了の受身／過去完了形	12	3			9

備考 βクラスは、ENRICH LEARNING I を学習した後、PROMINENCE II を学習する。

教科名 対象	外国語 高校1年	科目名 履修形態	英語表現 I, II 必修	単位数 授業形態	2 習熟度別		
学習の到達目標	<p>① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。</p> <p>② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、話し手や聞き手の意図などを理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えあつたりすることができる力を養う。</p> <p>③ 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を養う。</p>						
評価の観点 評価方法	<p>① 英語の学習を通じて言語の働きや役割などを理解し、自分の考え方や気持ちを適切な理由や根拠を添えて論理的に書く技能を身につけているか。（知識・技能）</p> <p>② やり取りや発表などの活動を通して、必要な情報を得ることや自分の意見や考えなどを適切に伝えることをしているか。（思考・判断・表現）</p> <p>③ 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に英語を用いてスピーチやプレゼンテーションなどの発信能力の向上を図ろうとしているか。（主体的に取り組む態度）</p>						
学習方法	<p>① 予習にて、本文理解に必要な文法事項、語彙を確認しておく。</p> <p>② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。</p> <p>③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、繰り返し積極的に教科書内容に触れる。</p> <p>④ 学習した文法事項や語彙などを復習し自分の伝えたい内容を英語で表現できるようにする。</p>						
教科書・教材等	<p>教科書 FACTBOOK English Logic and Expression (桐原書店)</p> <p>教科書 NEW FAVORITE English Expression II (東京書籍)</p> <p>副教材 GRAMMARMMASTER (Z会出版) 無双英語 (本校オリジナル教材)</p>						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	FACTBOOK Unit 0 Get to know more about your classmate	<ul style="list-style-type: none"> ・相手について知らなかつたことを聞き出す。 ・動詞、基本文型 	6	10	factbook Unit 6 How can we become more health-conscious?	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を照らし合わせて条件に合うものを確認する。 ・不定詞 	8
5	FACTBOOK Unit 1 Smart home, smart city	<ul style="list-style-type: none"> ・希望を伝え、スケジュールを相談しながら決める。 ・展示会についての感想をブログの日記に書く。 ・時を表す表現 	8	11	FACTBOOK Thinking Logically 3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活習慣を確認し、変えたい習慣を伝える。 ・相手からの悩み相談にアドバイスをする。 ・動名詞 	8
6	FACTBOOK Thinking Logically 1	<ul style="list-style-type: none"> ・意思を明確に示したまとまりのある文章を書く。 ・自分が将来、今の町に住み続けたいかスピーチをする。 	8	12	FACTBOOK Unit 7 How many clothes do you buy?	<ul style="list-style-type: none"> ・贈るための商品を相談しながら決める。 ・プレゼントへの感謝の気持ちを伝える。 ・分詞 	6
7	FACTBOOK Unit 3 Preparing for a natural disaster	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある商品を紹介し、その特長を説明する。 ・防災意識を高めるパンフレットの文章を書く。 ・助動詞 	6	1	FACTBOOK Unit 8 How do you decide which products to buy?	<ul style="list-style-type: none"> ・おすすめの商品を比較しながら紹介する。 ・図表を見ながらパンフレットの内容を説明する。 	6
8	FACTBOOK Unit 4 Water supporting our lives	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が知らない情報を説明する。 ・問題に対処するための道具を紹介する。 	2	2	冬期集中講座	<ul style="list-style-type: none"> ・比較 	8
9	FACTBOOK Thinking Logically 2	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態 	8	FACTBOOK Unit 9 A variety of ways to improve your English	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの考える良い方法を具体的に説明し合う。 ・お互いの希望を伝えあい参加プログラムを決める。 ・関係詞 	6	
	FACTBOOK Unit 5 Save food you can still eat!	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な理由が示されたまとまりのある意見文を書く。 ・お互いの状況を踏まえて問題解決の結論を出す。 	3	FACTBOOK Unit 10 How can we become foreigner-friendly?	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の要望に合った提案をする。 ・外国人観光客に役立つパンフレットの文章を書く。 ・仮定法 	6	

第 2 学年

教科名	国語	科目名	現代文	単位数	2
対象	高校2年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 近代以降の文章を読解できる能力を高め、大学入試に対応できる能力を身につけている。 ② 言語感覚や思考力を磨き、適切に他者理解をしながら考え方を深め、人生を豊かにする姿勢を育てる。 ③ 書く・話すことを基に、進んで自身の意見を表現することによって、正しく相手に伝える力を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	精選現代文B（大修館） 現代文グレートラーニング40 レベル3（尚文） プレミアムカラー国語便覧（教研） 自作テキストなど				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	評論：「システムとしてのセルフサービス」	筆者の独特な文体を論理的に読み取り、構成・展開・要旨などを的確に理解する。	6	10	評論：「ここは見える？」	筆者の主張や内容を捉えさせ、近代科学の方法論について読解を深めるとともに、抽象的・概念的な用語や表現を理解する。	8
5	評論：「分かち合う社会」	筆者の考察を読み取り、社会や科学への理解を深める。文章を批判的に読むことを通して、自分の考えを深め、表現できる力を養う。	8	11	評論：「赤い薔」	社会と個人の関係という漠然とした作品中の作者のアイデンティティーを読み取り、作品の道筋を学習者それぞれの考えを出し合いながら比較検討する力を養う。	8
6	小説：「山椒魚」	豊かな表現を読み味わうとともに、作者が施した表現技法の狙いも把握し、小説の構造性を理解する。	8	12	評論：「猫は後悔するか」	これまでの学習成果を踏まえ、哲学的で抽象度の高い文章を的確に理解し、要約できる力を身につける。	6
7	復習及び発展内容		6	1	大学入試対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。	6
8	復習及び発展内容		2	2	大学入試対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。	8
9	評論：「あらわれと消え去り」	文章の構成や、段落相互の関係を読み取らせ、筆者の主張や内容をとらえ、読解力・要約力を高める。	8	3	大学入試対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を付ける演習や指導も随時行う。	6

備考　・副教材を活用した問題演習も、授業中に行う。　・適宜、論文指導を行う。

教科名	国語	科目名	古典	単位数	2
対象	高校2年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 古典を正確に読解し的確に理解する能力を育成し、大学入試に対応できる能力を身につける。 ② 様々な時代の文学を学ぶことで、思考力を伸ばし心情を豊かにする。 ③ 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学习に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	精選古典B（大修館） 古典グレートラーニング40 レベル3（尚文） プレミアムカラー国語便覧（教研） 自作テキストなど				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	古文：「源氏物語」	「源氏物語」の世界に親しみ、その魅力を理解する。また、それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理を理解する。	6	10	漢文：「文章」 古文「和泉式部日記」	作品に現れる社会観・自然観を読み取り、自己の感じ方を豊かにさせる。また、速読・速解能力に磨きをかける。 人間、社会などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにするとともに速読・速解できるようにする。	8
5	漢文：「古代の史話」 稽頃の妻 塞翁が馬	漢文構造・句法事項に関しては抜けの無いようにする。また、漢文に親しみ、当時の人々の考え方や生き方を学ぶ。	8	11	漢文：「思想」 古文：「蜻蛉日記」	孔子や孟子等の学問や政治、思想に対する考え方を知り、当時の物の考え方や社会性を学ばせ、速読・速解能力に磨きをかける。 和歌の表現技法を理解したり、登場人物の意図を捉え、人物間の心情を表現に即して深く読み味わえるようにする。	8
6	古文：「大鏡」 漢文：「漢詩」	作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。読解の前提となる敬語や文法知識を身につける。 唐代の有名な詩人の詩を繰り返し音読し、人生観や自然観についての認識を深めるとともに、漢文独特の口調・句法を習得する。また、近体詩の特徴を理解する。	8	12	復習及び発展内容		6
7	漢文：「史伝」	散文表現の特色を理解する。また、作品に現れる作者の社会観、自然観を読み取る。	6	1	大学入試対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を着ける演習や指導も随時行う。	6
8	復習及び発展内容		2	2	大学入試対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を着ける演習や指導も随時行う。	8
9	古文：「枕草子」	和歌等を含む文学作品の学習を通じ、登場人物の心情変化や行動理由を正確に読み取る。古典常識を身につけながら、場面状況に応じた本文の読み取りから、速読速解能力の基礎を養う。	8	3	大学入試対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。新制度入試問題への対応力を着ける演習や指導も随時行う。	6

備考

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	単位数	5
対象	高校2年	履修形態	選択必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 世界の歴史を日本の歴史と関連付け、世界の構造や成り立ちを歴史的視野から理解しあつ考察する力を養う。 ② 他国や他の地域と協調していく態度を身につける。 ③ 民主的、平和的な国家の一員としての自覚をもつ。 ④ 国際社会の中で、主体的に行動する日本人としての資質を培う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考查、ワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考查、ワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、課題提出物、ワークシートなどで評価。				
学習方法	① 教科書記載事項を重視し、熟読をする。 ② 授業で解説や補足説明を受ける。 ③ 問題演習によって復習することにより、知識の定着を図る。				
教科書・教材等	詳説世界史B（山川出版社）、ゼミナール世界史（とうほう） 世界史詳覧（浜島書店）				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第15章 冷戦と第三世界の独立 第16章 現在の世界	冷戦体制により世界が分裂し、段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として発言力を強めたことを理解する。 東欧社会主义圏とソ連の解体、情報技術革命とグローバル経済の進展、多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。	15	10	第4章 イスラーム世界の形成と発展	イスラーム成立の背景とその特質を理解する。 アラブ人によるイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化など、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	20
5	第1章 オリエントと地中海世界	各地域の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰やイラン人の活動、エーゲ文明、そしてギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	20	11	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	地中海世界の崩壊後、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が東西に形成され、変動していく過程と両世界それぞれの独自の性格を理解する。 中世における封建社会の成立、教会の権威、東ヨーロッパ世界の成立(ビザンツ帝国の歴史・スラヴ人の歴史)について理解する。	20
6	第2章 アジア・アメリカの古代文明	各地域の地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。東アジアでは中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。	20	12	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	内陸アジアの自然と風土、遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。 モンゴル帝国の興亡と、その活動が諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。	15
7	第2章 アジア・アメリカの古代文明	先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	15	1	第7章 アジア諸地域の繁栄	明・清帝国と朝鮮や日本の関係、東南アジア世界の動向を理解する。 トルコ・イランからインドに誕生したイスラーム帝国の動向を理解する。	15
8	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。	5	2	第8章 近代ヨーロッパの形成	主権国家体制の特色と、それを形成したヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。 大航海時代の到来、ルネサンスと宗教改革といったヨーロッパ世界の拡大と変革の動きを理解する。	20
9	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	北方遊牧民族の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。 隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。	20	3	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開	17~18世紀におけるヨーロッパ諸国の動きを、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。 ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。	15

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	5
対象	高校2年	履修形態	選択必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 我が国の歴史の展開を日本史的視野に立って総合的に学習し、考察させる。 ② 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって歴史的思考力を培う。 ③ 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考査、ワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、課題提出物、ワークシートなどで評価。				
学習方法	① 教科書・史料集・図録を用い、歴史を考察する基本的な方法を身につける。 ② 史料・資料を読み取り、歴史的事象の因果関係を見つけ、受験に必要な知識・技法を身につける。 ③ 大学入試・校外模試の問題演習を行い、受験に必要な知識を身につける。				
教科書・教材等	詳説日本史 改訂版（山川出版社） 詳説日本史図録（山川出版社） 4ステージ演習ノート日本史B（教研出版）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 日本のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政權	旧石器文化・縄文文化について自然環境や当時の人々の生活様式・信仰などを理解する。 朝鮮半島での動き、また大陸からの文化の影響による生活の変化に着目しながら、古代国家の展開や文化を理解する。	15	10	第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成長 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	産業・経済の発展、日明貿易など東アジア世界との交易に着目しながら、室町幕府の盛衰を理解する。 結束を強める庶民の動き、武家文化と公家文化の関わり、庶民文化の萌芽を理解する。	15
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代	隋・唐など東アジア世界との交流に着目しながら、我が国における国家の形成と律令体制の確立の過程を理解する。	20	11	第6章 幕藩体制の成立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立	戦国の騒乱の中から下克上など中世社会の多様な展開及び天下統一を掲げた織田信長と豊臣秀吉の政策とその意図、気質と経済力に反映された豪華・壮大な文化を理解し、徳川家による支配体制の確立の過程と庶民の生活の変化を理解する。	15
6	4 天平文化 5 平安王朝の形成	天平文化が平城京を中心とした貴族文化であることを理解する。また、8世紀末の平安京遷都などの律令再建の動きを理解する。	20	12	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動搖 1 幕政の改革 2 幕府の衰退 3 化政文化	文治政治による幕政の安定に伴い、農具・諸産業の変化、経済の発展によって広がった多様な文化を理解する。 飢饉や天災や外国船に対する幕府・藩・庶民の対応の変化に気付き、幕藩体制の動搖を理解する。	15
7	第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士	平安朝廷の確立と蝦夷など地方と貴族社会の変貌から藤原氏による摂関政治へつながっていく流れを理解する。	15	1	第11章 占領下の日本	占領から独立までの我が国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係を理解する。	20
8	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉文化の成立	東アジアとの関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の同行に着目しながら、遣唐使を廃止したことで生まれた古代国家の推移について理解する。	5	2	高校1年次の復習 共通テスト第5問・第6問 対策 明治時代①	開国から明治文化までの歴史の流れを問題演習を軸に理解する。	15
9	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	武士の土地支配と公武の関係、宋・元と日本の関わりに着目しながら、武家政権の形成過程と鎌倉新仏教などに見られる新しい機運について理解する。	15	3			

教科名	地理歴史	科目名	地理B	単位数	5
対象	高校2年	履修形態	選択必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 近代世界の地理的な事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。 ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
評価の観点評価方法	① 知識・技能…定期考查、ワークシートなどで評価。 ② 思考・判断・表現…授業内での発言、定期考查、ワークシートなどで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業内での発言、課題提出物、ワークシートなどで評価。				
学習方法	① 地図帳、プリント（資料）類を使い、板書をノート整理し、効率よく地理的な事象を把握する。 ② 基礎事項を確認し、地図・地名・用語・統計を理解する。 ③ 問題演習によって地理的な諸課題について、知識の定着を図る。				
教科書・教材等	新編詳解地理B（二宮書店）新詳高等地図 初訂版（帝国書院）新編地理資料（とうほう）記入と整理スタディノート地理B（数研出版）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	地理情報と地図 1 世界観の変化と地図 2 地球儀と世界地図 3 地理情報の地図化	緯度と経度、地球儀と地図の違い、地図の種類と特徴を学ぶことにより、球面上の世界の様々な捉え方を理解する。	15	10	生活文化と民族・宗教 1 衣食住 2 言語と宗教 3 民族と国家	世界の衣食住、言語と宗教、国家の領域と領土問題について理解する。	20
	地図と地域調査 1 地図の活用 2 身近な地域の調査	時差と人間生活について学ぶ。様々な統計地図の特徴を学ぶ。また、統計資料をグラフ化する。					
5	自然環境 1 地形 2 気候 3 自然と生活	世界の大地形と小地形、世界の気候の諸原則について学ぶ。また、地形や気候が人間生活を形成していることを理解する。	20	11	現代世界の地域区分 現代世界の諸地域 1 中国 2 韓国 3 東南アジア	世界の国々について、地誌的に考察する。 自然、地形、産業、都市、主要国の政治政策や経済及び貿易の特徴について資料を用いながら理解する。	20
	自然環境に関する諸課題 1 環境問題 2 異常気象と気象災害	地球規模での環境問題について学び、解決に向けての取り組みや自分にできることを考察する。			4 インド 5 西アジア・中央アジア 6 アフリカ	世界の国々について、地誌的に考察する。 自然、地形、産業、都市、主要国の政治政策や経済及び貿易の特徴について資料を用いながら理解する。	
6	資源と産業 1 農林水産業	世界の農林水産業の分布や特徴、課題について理解する。	20	12	7 EU 8 ドイツとポーランド 9 ロシア	世界の国々について、地誌的に考察する。 自然、地形、産業、都市、主要国の政治政策や経済及び貿易の特徴について資料を用いながら理解する。	15
	資源と産業 2 資源・エネルギー 3 工業	世界で生産される資源・エネルギーの分布や特徴を理解し、環境問題と関連する今後のエネルギー活用を考える。 世界の工業の分布や特徴、課題について理解し、各工業の立地条件とそれに関連した都市について理解する。					
8	4 流通と消費	世界の交通、情報通信、貿易、観光産業の特徴と課題を理解する。	5	2	10 アメリカ 11 ブラジル 12 オーストラリアとカナダ	世界の国々について、地誌的に考察する。 自然、地形、産業、都市、主要国の政治政策や経済及び貿易の特徴について資料を用いながら理解する。	20
9	人口と村落・都市 1 世界の人口 2 日本の人口問題 3 村落と都市	世界と日本の人口の分布や特徴、人口問題について理解する。 世界や日本の村落、都市の特徴や形成過程を理解する。 さまざまな都市問題について考察し、解決に向けての取り組みを理解する。	20	3	現代世界と日本 1 世界の中の日本 2 持続可能な社会に向けて	グローバル化が進展する日本の姿を考察する。	15

教科名	数学	科目名	数学II(数学IA)	単位数	4
対象	高校2年(文系)	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらう説明が書けるよう心がける。				
教科書・教材等	進研WINSTEP 数学I・A[改訂版] (ラーンズ)				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	数と式、集合と命題	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	12	10	整数の性質	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	16
5	2次関数	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	16	11	図形の性質	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	16
6	図形と計量	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	16	12	思考力・判断力・表現力の養成	思考力・判断力・表現力を養成する問題を取り上げる。各分野を探求する問題と、日常の課題を解決する問題を通して、習得した考え方を広げ、より深めていく。	12
7	データ分析	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	12	1	思考力・判断力・表現力の養成	思考力・判断力・表現力を養成する問題を取り上げる。各分野を探求する問題と、日常の課題を解決する問題を通して、習得した考え方を広げ、より深めていく。	12
8	データ分析	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	4	2	問題演習	大学入学共通テストに向けた問題を、基礎から応用まで体系的に演習することによって、入試に対応できる実力を養成する。	16
9	場合の数と確率	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。また、模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	16	3	問題演習	大学入学共通テストに向けた問題を、基礎から応用まで体系的に演習することによって、入試に対応できる実力を養成する。	12

備考

教科名	数学	科目名	数学II(数学III)	単位数	4		
対象	高校2年(理系)	履修形態	必修	授業形態	習熟度別		
学習の到達目標	① 基礎的な知識の習得と授業の充実を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。 ② 極限・微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ② 評定にあたっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価に偏した評定を行わない。 ③ 「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方・公式等の有用性を確認する。そして、教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ② 今までに学んだ考え方・公式等と、授業で新たに学んだ考え方・公式のつながりを意識するよう心がける。						
教科書・教材等	高等数学 数学III(数研出版)、改訂版 4STEP 数学III(数研出版)、改訂版 チャート式 基礎からの数学III(数研出版) 三訂版 クリアー数学演習IAⅡB 受験編(数研出版)、三訂版 クリアー数学演習III 受験編(数研出版) 進研WINSTEP 数学IA[改訂版](ラーンズ)、進研WINSTEP 数学IB[改訂版](ラーンズ)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学III> 第4章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列	極限についての理解を深め、極限の性質や、無限の概念を用いて数列の極限を求めることができるようになる。公比の場合分けによって、等比数列がどのような極限になるのかを考えることができるようになる。	12	10	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化	導関数を用いて接線・法線の方程式を求めたり、グラフの増減に関する問題が解けるようになる。	16
5	3. 無限級数 第2節 関数の極限 4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2)	様々な式変形に対応し、無限等比級数の値を求めることができるようになる。 簡単な関数の極限について、グラフなどで直観的に考察できる。不定形を解消するよう関数の式を変形することにより、関数の極限値が求められる。	16	11	4. 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 6. 方程式、不等式への応用 7. 速度と加速度 8. 近似式	第2次導関数を用いてグラフの正確な形が分かるようになる。 グラフを利用して、方程式・不等式を解く。速度・加速度と微分の関係を理解し問題を解くことができ、近似式を用いて近似値を求めることができるようにする。	16
6	6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性	定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	16	12	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分	いろいろな関数についての不定積分法・定積分法を理解し、その有用性を認識する。いろいろな関数についての積分法を、図形の求積などに活用できるようになる。	12
7	第5章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算	定義に従って微分係数や導関数を求めることができ、微分可能と連続との関係を正確に理解することができるようになる。積・商・合成関数・逆関数の導関数の計算法を身につける。	12	1	第2節 定積分 4. 定積分とその基本性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題	いろいろな関数についての定積分法を理解し、その有用性を認識する。いろいろな関数についての積分法を、図形の求積などに活用できるようになる。	12
8	■微分計算演習		4	2	第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	定積分を、直線や曲線で囲まれた部分の面積、立体の体積などに活用できるようになる。	16
9	3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数	三角関数、指数・対数関数、高次導関数を求めるができるようになる。媒介変数で表された関数の導関数を求めるができるようになる。	16	3	問題演習実践力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力をつける。	12

備考

教科名	数学	科目名	数学B(数学ⅡB)	単位数	2
対象	高校2年(文系)	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 問題演習で途中の過程を丁寧に記述することを通じて、他人に納得してもらえる説明を書けるよう心がける。				
教科書・教材等	進研WINSTEP 数学Ⅱ・B[改訂版] (ランズ)				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	式と証明、複素数と方程式	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	9	10	数列	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	12
5	図形と方程式	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	12	11	ベクトル	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	12
6	三角関数	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	12	12	式と証明、複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指數関数・対数関数	模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	9
7	指數関数・対数関数	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	9	1	微分法・積分法 ベクトル 数列	模試・入試の問題を通して、重要なテーマの考え方・解法をマスターし、今の実力を測る。	9
8	微分法・積分法	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	3	2	式と証明	大学入学共通テストに向けた問題を、基礎から応用まで体系的に演習することによって、入試に対応できる実力を養成する。	12
9	微分法・積分法	教科書例題レベルの問題を通して、定理・公式の基本的な使い方を確認する。	12	3	図形と方程式	大学入学共通テストに向けた問題を、基礎から応用まで体系的に演習することによって、入試に対応できる実力を養成する。	9

備考

教科名	数学	科目名	数学B(数学III)	単位数	2
対象	高校2年(理系)	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 数学について理解させ、基礎的な知識の習得と授業の充実を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 ② 校外模試を意識した基礎力の充実と、応用力の育成を図る。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、「ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 問題演習で途中の過程を丁寧に記述することを通じて、他人に納得してもらえる説明を書けるよう心がける。				
教科書・教材等	高等数学 数学III(数研出版)、改訂版 4STEP 数学III(数研出版)、改訂版 チャート式 基礎からの数学III(数研出版) 三訂版クリア一数学演習ⅠAⅡB 受験編(数研出版)、三訂版クリア一数学演習Ⅲ 受験編(数研出版) 進研WINSTEP 数学ⅠA[改訂版](ラーンズ)、進研WINSTEP 数学ⅡB[改訂版](ラーンズ)				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〈数学III〉 第1章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理	複素数平面に対応させ、極形式、ド・モアブルの定理を理解する。図形の性質を複素数の計算を用いて考察できるようにする。	9	10	第3章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	分数関数・無理関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。元の関数と逆関数の関係や合成関数の写像的な概念を理解する。	12
5	4. 複素数と図形 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楊円 3. 双曲線	図形の性質を複素数の計算を用いて考察できるようにする。 いろいろな曲線の性質を理解する。また、いろいろな変換の意味を理解させて活用できるようにする。	12	11	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎力をつける。	12
6	4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質	いろいろな曲線の性質を理解する。また、いろいろな変換の意味を理解させて活用できるようにする。	12	12	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎力をつける。	9
7	第2節 媒介変数表示と 極座標 7. 曲線の媒介変数表示 8. 極座標と極方程式	曲線の媒介変数表示の意味を理解し、媒介変数表示を用いて既習の曲線を表すことができるようとする。 新たに極座標を定義し、極座標を用いて既習の曲線を表すことができる。また、極座標を用いることで容易に表せる曲線についての考察ができるようとする。	9	1	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎力をつける。	9
8	問題演習		3	2	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎力をつける。	12
9	第3章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	分数関数・無理関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようする。元の関数と逆関数の関係や合成関数の写像的な概念を理解する。	12	3	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎力をつける。	9

備考

教科名	理科	科目名	化学	単位数	4			
対象	高校2年	履修形態	必修	授業形態	文理別			
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようになる。							
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価							
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。							
教科書・教材等	化学(東京書籍) ンサー総合化学(啓林館)、オリジナルテキスト							
年間授業計画								
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数	
4	〔化学〕 3章 1. 溶解 2. 希薄溶液の性質 3. コロイド	<ul style="list-style-type: none"> 溶解のしくみや溶解量について理解する。 蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下などの溶液の性質を理解する。 コロイドの性質を理解する。 	12	10	4. 窒素・リンとその化合物 5. 炭素・ケイ素とその化合物 3章 典型元素の单体と化合物 1. アルカリ金属とその化合物 2. 2族元素とその化合物 3. 1、2族以外の典型元素とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 金属元素における单体とその化合物について性質と用途を理解できる。 		16
5	4章 固体の構造 1. 結晶 2. 金属結晶の構造 3. イオン結晶の構造 4. その他の結晶と非結晶	<ul style="list-style-type: none"> 結晶の成り立ちとその構造を理解する。 金属、イオン結晶格子について理解する。 アモルファスについて理解する。 	16	11	4章 遷移元素の单体とその化合物 1. 遷移元素とその化合物 2. 金属イオンの分離・確認	<ul style="list-style-type: none"> 遷移元素における单体とその化合物について性質と用途を理解する。 		16
6	第2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1. 反応熱と熱化学方程式 2. ヘスの法則	<ul style="list-style-type: none"> 熱化学反応式の意味を理解し、作り方を習得する。 ヘスの法則を理解する。 	16	12	第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1. 有機化合物の特徴 2. 有機化合物の構造式の決定	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴と分類の仕方を理解する。 化学式の決定方法について理解する。 	12	
7	第2章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡の移動	<ul style="list-style-type: none"> 化学平衡の法則を各平衡状態において考察する。 ルシャトリエの原理を理解する。 	12	1	第2章 炭化水素 1. 鮎和炭化水素 2. 不鮎和炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> 鮎和炭化水素の構造と性質を理解する。 不鮎和炭化水素の構造と性質を理解する。 	12	
8	第3章 水溶液中の化学平衡 1. 電離平衡 2. 塩の水への溶解	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基を化学平衡の視点から理解する。 水の電離平衡から、水のイオン積の成り立ちを理解し、対数を使ったpHの計算法を習得する。 溶解度積の計算を習得する。 	4	2	第3章 酸素を含む有機化合物 1. アルコールとエーテル 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸とエステル 4. 油脂とセッケン	<ul style="list-style-type: none"> 酸素を含む官能基の誘導体の構造と性質を理解する。 セッケンの製法および構造と洗浄のしくみを理解する。 	16	
9	第4編 無機物質 2章 非金属元素の单体と化合物 1. 水素と希ガス 2. ハロゲンとその化合物 3. 酸素・硫黄とその化合物	<ul style="list-style-type: none"> 非金属元素の单体とその化合物について性質と用途を理解する。 	16	3	第4章 芳香族化合物 1. 芳香族炭化水素 2. 酸素を含む芳香族化合物 3. 窒素を含む芳香族化合物 4. 芳香族化合物の分離	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素の性質や構造を理解する。 フェノール類と芳香族カルボン酸の性質と構造を理解する。 芳香族アミンの構造と性質を理解する。 分離法の原理を理解する。 	12	

備考

教科名	理科	科目名	物理	単位数	4
対象	高校2年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探求する能力や態度を高める。				
評価の観点評価方法	① 知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	物理基礎(数研出版)、物理(数研出版) センサー物理基礎+物理(啓林館)				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	[物理基礎] 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振共鳴	・音を波として考察し、それによって理解ができる現象があることを学ぶ。 ・弦、閉管、開管の場合についてそれぞれ定常波の形を理解し、適切に記述できる。	12	10	3. 单振動 4. 万有引力	・单振動を身近な運動に関連づけ考察し、三角関数を用いて記述することで、物体の運動が理解できる。 ・ケプラーの法則を理解し、円運動および橍円運動の衛星に対して適切に当てはめて考察することができます。	16
5	[物理] 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 2. 落体の運動	・2次元平面内の運動を物理基礎で学習した公式を応用して理解する。	16	11	第2編 热と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則	・ボイルの法則、シャルルの法則、イルシャルルの法則を理解する。 ・状態方程式を使える。 ・熱力学第一法則を理解する。	16
6	第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力とつり合い 2. 剛体にはたらく力の合力と重心	・大きさのある物体について導入する力のモーメントについて理解し、つり合いの式を立て方を身に付ける。 ・重心の定義を正確に理解し、様々な形の物体の重心を求めることができる。	16	12	2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化	・ミクロな立場で、気体分子の運動を理解し、運動エネルギーと温度の関係性を理解する。 ・定圧変化、定積変化、等温変化、熱変化などのグラフを見て、熱力学第一法則を理解する。	12
7	第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数	・運動量を理解し、運動量変化と力積の関係を理解する。 ・運動量保存則と反発係数の定義を正確に理解し、直線上の運動で使うことができる。	12	1	第3編 波 第1章 波の伝わり方 1. 正弦波 2. 波の伝わり方	・波を三角関数を導入し理解する。 ・波の干渉、屈折、回折を理解する。 ・波の示す屈折などの現象を理解する。	15
8		・衝突、合体、分裂の場合に関して運動量保存則や反発係数の定義、力学的エネルギー保存則や相対速度を使い、衝突後の物体の運動を記述できる。	4	2	第2章 音の伝わり方 1. 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果 第3章 光 1. 光の性質	・音のドップラー効果の公式を使うことができる。 ・光の示す屈折などの現象を知り、折の法則を使うことができる。	16
9	第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力	・等速円運動を理解し、力のつり合い運動方程式、力学的エネルギー保存則を使いこなし、物体の運動を記述できる。 ・慣性力を理解し、加速度運動上での物体の運動を記述できる。	16	3	2. レンズ 3. 光の干渉と回折	・レンズの公式を理解する。 ・ヤングの実験、回折格子について干渉の条件式を理解し、使うことができる。	12

備考

教科名	理科	科目名	生物	単位数	4
対象	高校2年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	①自然の事物・現象について理解する。 ②人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点評価方法	①知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ②思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	①授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ②授業時に行う演習で、基本事項を確実に覚える。				
教科書・教材等	生物(東京書籍) センサー総合生物(啓林館)、オリジナルテキスト				
年間授業計画					
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容
4	[生物] 第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	・生物を構成する物質を理解する。 ・細胞の構造とはたらきを理解する。	12	10	第3編 生殖と発生 第1章 生物の生殖と配偶子の形成
5	第2章 生命現象を支えるタンパク質	・生命活動を担うタンパク質の基本的な特徴を理解する。 ・タンパク質がどのようにはたらきを理解する。 ・いろいろな運動にかかるタンパク質について理解する。 ・酵素のはたらきを中心に生体内の化学反応について理解する。	16	11	第2章 動物の発生
6	第3章 代謝とエネルギー	・ATPの役割や生物がどのようにエネルギーを獲得しているかを理解する。 ・呼吸と発酵のしくみについて理解する。	16	12	第3章 動物の発生のしくみ 第4章 発生をつかさどる遺伝子
7		・光合成のしくみについて理解する。 ・植物と動物それぞれの窒素同化とそのしくみについて理解する。	12	1	第5章 植物の発生 第4編 生物の環境応答 第1章 動物の刺激の受容と反応
8	第2編 遺伝子のはたらき 第1章 遺伝情報の発現	・DNAの構造とその複製について理解する。 ・タンパク質が合成される過程と形質が発現する過程を理解する。	4	2	第2章 動物の行動
9	第2章 遺伝子の発現調節 第3章 バイオテクノロジー	・細胞の形や機能の違いは、発現する遺伝子の違いであることを理解する。 ・目的の遺伝子を取り出して調べる技術、遺伝子を操作する技術について理解する。	16	3	第6章 植物の環境応答 1.植物の反応 2.成長の調節 3.花芽形成と発芽の調節

備考

教科名	理科	科目名	理科基礎演習	単位数	4		
対象	高校2年	履修形態	選択	授業形態	文理別		
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)、オリジナルテキスト						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 元素の性質と周期律	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6	10	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和滴定	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
5	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	11	さまざまな植生 植生と遷移 気候とバイオーム	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
6	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 物質の分類	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	12	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属と酸化還元反応 電池・電気分解	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6
7	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6	1	生態系 物質循環とエネルギー 生態系のバランス 生態系の保全	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6
8	原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	2	2	化学と人間生活	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
9	体液という体内環境 腎臓と肝臓 神経とホルモン	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	3	生物と人間生活	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6

備考

教科名 対象	保健体育 高校2年	科目名 履修形態	体育 必修	単位数 授業形態	2 一斉
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことをできるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体つくり運動 ※体育理論 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 陸上競技	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。	6 8	6 8 8	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	8 8 6
		運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できる。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。					
5							
6					バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6
7	ソフトボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ベースボール型では状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。	6	1			6
8					バドミントン	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
9	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	8	3			6

備考

教科名 対象	保健体育 高校2年	科目名 履修形態	保健 必修	単位数 授業形態	1 一斉		
学習の到達目標	①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。						
評価の観点 評価方法	①忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ②保健分野における知識をテストによって総合的に評価する。 ③各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	①教科書・資料を用いた学習						
教科書・教材等	新保健体育 改訂版（大修館書店）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	生涯の各段階における健康	生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていること。	2	10			3
5			3	11	環境と健康	人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策を取る必要があること。	3
6	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。 また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。	4	12			4
7			3	1	環境と健康食品の健康	環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものにするよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること。	3
8			0	2	労働と健康	労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があること。	4
9	様々な保健活動や対策	我が国や世界では、健康課題に応じて様々な保健活動や対策が行われていること。	3	3			2

備考

教科名 対象	外国語 高校2年	科目名 履修形態	単位数 必修	8 習熟度別
学習の到達目標	① 必要な情報を得て、話し手や書き手の意図を把握したり概要や要点を目的に応じてとらえたりすることができる。 ② 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 ③ 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを論理性に注意して発信することができる。			
評価の観点 評価方法	① 文法事項や語彙力を身につけて正しく活用することができたり、説明・評論・物語・随筆などを読んで理解できているか。（知識・技能） ② 目的や場面、状況に応じて必要な情報を得たり、自分の考え方や意見を伝えたりすることができるか。（思考・判断・表現） ③ 積極的に授業に参加し、意欲的に取り組んでいるか。（主体的に取り組む態度）			
学習方法	① 本文を読んでその内容を、文構造や文脈、論旨など様々な面から理解する。 ② 音声教材を利用するや音読を通して、リスニング（スピーキング）対策に努める。 ③ 大学受験に向け、受験対策問題や過去問題に積極的に取り組む。			
教科書・教材等	教科書「PROMINENCE Communication II・III」「NEW FAVORITE II」（東京書籍） GRAMMARMMASTER（Z会出版）、大学入試過去問題対策等			

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4			24	10			32
5	補助教材・副教材を用いて大学受験対策演習 *教科書は必要に応じて使用する。	長文を読んでいく中で、パラグラフの構造を理解し、筆者の述べたポイントをつかみ、場合によつては要約に取り組む。	32	11	補助教材・副教材を用いて大学受験対策演習 *教科書は必要に応じて使用する。	各パラグラフの論理関係、展開を追い、文章全体の意味を把握する。	32
6			32	12			24
7			24	1		冬期集中講座	24
8		夏期集中講座	2		補助教材・副教材を用いて大学受験対策演習 *教科書は必要に応じて使用する。	パラグラフリーディングを通して、文章全体の要約に取り組む。 文章の論理を吟味し、critical thinkingを用いて文章を読む。	32
9	補助教材・副教材を用いて大学受験対策演習 *教科書は必要に応じて使用する。	各パラグラフのポイントを理解し、パラグラフどうしの論理的な関係をつかむ。	8	3			24

第3学年

教科名	国語	科目名	現代文演習	単位数	3
対象	高校3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 大学入試に対応できる現代文の能力を身につける。 ② ものの見方・考え方を深め、高度な読解力・思考力を磨き、他者に表現する力を身につける。 ③ 物事に対する視野を広げ、自身の人生や現代社会を豊かにする態度を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた受験指導を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	大学入試対策自作テキスト 実戦問題パックV(駿台) 共通テスト対策実力完成直前演習(Learn-S)など				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	9	10	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12
5	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12	11	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12
6	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12	12	共通テスト試験対策	大学入試共通テスト試験直前対策を行う。	9
7	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	9	1	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	大学入試共通テスト試験直前対策を行う。	9
8	共通テスト試験対策など	これまでの総復習など。また、記述対策も併せて行う。	3	2			
9	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野をとりあげ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力をつける。また、記述対策も併せて行う。	12	3			

備考 大学別記述対策・小論文対策等、個人に応じた対策を定期的に行う。

教科名	国語	科目名	古典・古典演習	単位数	3
対象	高校3年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 大学入試に対応できる古典の能力を身につける。 ② ものの見方・考え方を深め、高度な読解力・思考力を磨き、他者に表現する力を身につける。 ③ 物事に対する視野を広げ、自身の人生や現代社会を豊かにする態度を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた受験指導を行い、論理的な思考と確かな知識を付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	大学入試対策自作テキスト 実戦問題パックV(駿台) 共通テスト対策実力完成直前演習(Learn-S)など				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	9	10	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	実践力を付けるために、近年の大学入試で出題されたテーマ・分野を用いて、主に大学入試共通テストを中心とした入試対策を行う。また記述対策も併せて行う。	12
5	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	12	11	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	実践力を付けるために、近年の大学入試で出題されたテーマ・分野を用いて、主に大学入試共通テストを中心とした入試対策を行う。また記述対策も併せて行う。	12
6	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	12	12	共通テスト試験対策	大学入試共通テスト直前対策を行う。	9
7	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	9	1	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	大学入試共通テスト直前対策を行う。	9
8	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	3	2			
9	共通テスト試験対策 国公立二次・私大対策	入試頻出内容・分野を取り上げ、主に大学入試共通テスト対策の演習を行う。適宜教科書の読解も行い、入試基礎力を付ける。また、記述対策も併せて行っていく。	12	3			

備考 大学別記述対策等、個人に応じた対策を定期的に行う。

教科名	地理歴史	科目名	世界史B・世界史演習	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 世界の歴史を日本の歴史と関連付け、世界の構造や成り立ちを歴史的視野から理解しあつ考察する力を養う。 ② 民主的、平和的な国家の一員としての自覚をもつ。 ③ 国際社会の中で、他国（他地域）と協調しながら、主体的に行動する日本人としての資質を培う。 ④ 一・二年次に学習してきた世界史を、大きな流れとして繋げ、大学入学試験に対応できる力を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期検査、ワークシート、ノートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言、定期検査、ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学习に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 教科書記載事項を重視し、熟読をする。 ② 授業で解説や補足説明を受ける。 ③ 問題演習によって復習することにより、知識の定着を図る。 ④ 単元ごとに入試対策を行う。				
教科書・教材等	詳説世界史B（山川出版社） 世界史Bマスター問題集（山川出版社） 新詳世界史図説（浜島書店） チェック&演習世界史B（教研出版）				
年間授業計画					
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容
4	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ 世界の成立	イギリス産業革命の背景と展開、資本主義体制の確立とその影響について理解する。 アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。	6	10	基礎力確認
5	第11章 欧米における近代国民国家の発展	市民革命と産業革命という「二重革命」の進行するなかで、欧米先進諸国では近代市民社会の形成が進み、一方東欧・南欧地域ではナショナリズムが台頭してきていることを理解する。	8	11	大学入学共通テスト対策 ・模擬試験問題の復習 ・パターン別問題
6	第12章 アジア諸地域の動揺	オスマン帝国、ムガル帝国、清朝などのアジアの王朝支配の動揺と改革、日本や東南アジア諸国の対応などから、19世紀ころのアジアとヨーロッパの関係を理解する。	8	12	大学入学共通テスト対策 ・直前演習問題
7	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	高1時の復習を行う。	6	1	私立大学入試、国立大学二次試験に対応できる十分な力を身に付ける。
8	第14章 二つの世界大戦	高1時の復習を行う。	2	2	
9	第15章 冷戦と第三世界の自立 第16章 現代の社会	高1時の復習を行う。	8	3	

備考

教科名	地理歴史	科目名	日本史B・日本史演習	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 我が国の歴史の展開を日本史的視野に立って総合的に考察できる。 ② 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって歴史的思考力を培う。 ③ 国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…添削課題、定期考査、ワークシートをもとに評価。 ② 思考・判断・技能…授業における発言、課題に対する考察などをもとに評価。 ③ 主体的学习に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 教科書・史料集・図録を用い、歴史を考察する基本的な方法を身につける。 ② 提出物で授業の理解度を確認する。 ③ 大学入試の問題演習を行い、受験に必要な知識を身につける。 ④ 史料・グラフを読み取り、仮説が正しいかどうか自分で判断できるようにする。				
教科書・教材等	詳説日本史 改訂版（山川出版社） 詳説日本史図録（山川出版社） 4ステージ演習ノート日本史B（数研出版）				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	高校1年次の復習 共通テスト第5問・第6問 対策 明治時代② 大正時代	日清戦争・日露戦争後の政治・外交・経済・文化について問題演習を通して確認する。 大正政変から金融恐慌までの歴史の流れを問題演習を通して理解する。	8	10	共通テスト対策③ 現代・テーマ別問題	第2次世界大戦後から平成時代までの歴史の流れを問題演習を軸に理解する。	8
5	高校1年次の復習 共通テスト第5問・第6問 対策 昭和時代①	第2次世界大戦までの歴史の流れや経済・外交について問題演習を通して理解する。	8	11	共通テスト対策④ 古代～現代	古代から現代までの歴史の流れや因果関係を問題演習を軸に理解する。	8
6	高校1年次・2年次の復習 共通テスト第5問・第6問 対策 昭和時代②・平成時代	戦後の日本の成長の歴史の流れを問題演習を軸に理解する。	8	12	共通テスト対策⑤ 資料・図表問題 史料読解問題	共通テスト特有の形式である史料読解やグラフ読解、図表問題の演習を通して、歴史的事象の因果関係に気づく。	8
7	共通テスト対策① 古代～中世・近世	古代から近世までの歴史の流れや因果関係を問題演習を軸に理解する。	8	1	共通テスト対策⑥ 私大・国公立二次試験対策	古代から現代までの歴史の流れや因果関係を問題演習を軸に理解する。 共通テスト後は、進路に合わせた対策を通して十分な力を身に付ける。	8
8	共通テスト対策② 古代～近世・近代	古代から近世・近代までの歴史の流れや因果関係を問題演習を軸に理解する。	2	2	私大・国公立二次試験対策	進路に合わせた対策を通して十分な力を身に付ける。	
9	共通テスト対策② 古代～近世・近代	古代から近世・近代までの歴史の流れや因果関係を問題演習を軸に理解する。	8	3			

教科名	地理歴史	科目名	地理B・地理演習	単位数	2		
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 現代世界の地理的な事象を、主に地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 ② 国家、村落・都市、貿易など、歴史的変遷を通して現代社会的な考察力を養う。また、州ごとの地誌を見ながら、それぞれの特色を自然、気候、人種民族、産業など総合的な観点からつかむ。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、ワークシート、ノートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言、定期考査、ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学习に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、ワークシートをもとに評価する。						
学習方法	① 問題演習によって現代世界の課題意識を持ち、地理的な事象について知識の定着を図る。 ② 問題演習を通して、地図帳やデータブック、地理資料を活用し、基礎事項の定着を図る。						
教科書・教材等	詳解地理B（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院） 記入整理と演習スタディノート地理B（教研出版） 新編地理資料（とうほう） データブック オブ・ザ・ワールド（二宮書店）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	対策演習 系統地理分野 地形・気候・災害中心	模擬試験問題の解説の見方、学習の方法を再確認し、得点源に結びつける。 系統地理の単元別対策を行う。 演習を通して不得意な分野・単元を発見し、解説を通して克服する。	6	10	共通テスト対策① 模擬試験演習	問題演習を通して、対策演習で培ったことをいかす。	8
5	対策演習 系統地理分野 工業・農業中心	系統地理の単元別対策を行う。 演習を通して不得意な分野・単元を発見し、解説を通して克服する。 初出の図・グラフに対して、どの部分に着眼点を置けばよいかという判断力を身につける。	8	11	共通テスト対策② 模擬試験・過去問題演習	問題演習を通して、対策演習で培ったことをいかす。	8
6	対策演習 系統地理分野 共通テスト第3問中心	系統地理の単元別対策を行う。 演習を通して不得意な分野・単元を発見し、解説を通して克服する。 初出の図・グラフに対して、どの部分に着眼点を置けばよいかという判断力を身につける。	8	12	共通テスト対策③ 模擬試験・予想問題演習	問題演習を通して、対策演習で培ったことをいかす。	6
7	対策演習 地誌分野 共通テスト第4問 世界の諸地域中心	各地域の自然・風土・歴史などの特性を総合的に捉え、各地域の関係と相違点について理解する。	6	1	[二次試験講座] [私大演習講座]	共通テスト終了後、二次試験対策および私大試験問題を重点的に行い、十分な力を身に付ける。	8
8	対策演習 地誌分野 第4問 複数国比較問題 中心	各地域の自然・風土・歴史などの特性を総合的に捉え、各地域の関係と相違点について理解する。	2	2			
9	対策演習 日本地理分野 第5問・地形図中心	第5問で問われる日本の自然・地形・産業の特性を理解する。 特徴ある地形図の読図を通し、地形図を読む方法を身につける。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(文系数学ⅠA)	単位数	2		
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別		
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法ができるだけ増やす。						
教科書・教材等	2023共通テスト対策〔実力養成〕重要問題演習(ラーンズ) 共通テスト実戦問題パックV数学ⅠA(駿台文庫)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	数と式	集合と論理・式の計算の共通テスト問題に取り組み、即習事項の確認をしていく。	6	10	整数の性質	整数の性質の共通テスト問題に取り組みながら、約数と倍数、整数の性質など、基礎事項をおさえる。	8
5	2次関数	2次関数の共通テスト問題に取り組みながら、2次関数のグラフ、最大・最小など、基礎事項をおさえる。	8	11	図形の性質	平面図形の共通テスト問題に取り組みながら、図形の外心、内心、重心、円周角、方べきの定理など、基礎事項をおさえる。	8
6	図形と計量	図形と計量の共通テスト問題に取り組みながら、三角比、正弦定理、余弦定理など、基礎事項をおさえる。	8	12	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	データの分析	データの分析の共通テスト問題に取り組みながら、分散、標準偏差、箱ひげ図、相関係数など、基礎事項をおさえる。また、ヒストグラムや散布図などから、データを読み取れるようにする。	6	1	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	場合の数と確率	順列・組合せ、確率の共通テスト問題に取り組みながら、順列、円順列、組合せ、さまざまな確率など、基礎事項をおさえる。	2	2			
9	場合の数と確率	順列・組合せ、確率の共通テスト問題に取り組みながら、順列、円順列、組合せ、さまざまな確率など、基礎事項をおさえる。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(理系数学ⅠA)	単位数	2		
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別		
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法ができるだけ増やす。						
教科書・教材等	三訂版 クリアー数学演習ⅠAⅡB(教研出版)、共通テスト実戦問題パックV数学ⅠA(駿台文庫)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	数と式	数と式、方程式・不等式の二次試験の問題に取り組みながら、方程式・不等式などの基礎事項をおさえ、他分野でも使えるようにする。	6	10	整数の性質	論理と集合の二次試験の問題に取り組みながら、約数と倍数、整数の性質など、基礎事項をおさえる。	8
5	2次関数	2次関数の二次試験の問題に取り組みながら、2次関数のグラフ、最大・最小など、基礎事項をおさえる。	8	11	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	8
6	図形と計量	図形と計量の二次試験の問題に取り組みながら、三角比、正弦定理、余弦定理など、基礎事項をおさえる。	8	12	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	場合の数と確率	順列・組合せ、確率の二次試験の問題に取り組みながら、順列、円順列、組合せ、さまざまな確率など、基礎事項をおさえる。	8	1	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	場合の数と確率	順列・組合せ、確率の二次試験の問題に取り組みながら、順列、円順列、組合せ、さまざまな確率など、基礎事項をおさえる。	2	2			
9	図形の性質	平面図形の二次試験の問題に取り組みながら、図形の外心、内心、重心、円周角、方べきの定理など、基礎事項をおさえる。また、図形と計量で使われる図形的性質の修得を目指す。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(文系数学ⅡB)	単位数	2
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、來たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法ができるだけ増やす。				
教科書・教材等	2023共通テスト対策「実力養成」重要問題演習(ラーンズ) 共通テスト実戦問題パックV数学ⅡB(駿台文庫)				

年間授業計画						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい
4	図形と方程式	図形と方程式の共通テスト問題に取り組みながら、直線の方程式、円の方程式、接線の方程式、軌跡など、基礎事項をおさえる。	6	10	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。
5	三角関数	三角関数の共通テスト問題に取り組みながら、加法定理、2倍角の公式、合成など、基礎事項をおさえる。	8	11	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。
6	指數関数・対数関数	指數関数・対数関数の共通テスト問題に取り組みながら、指數関数・対数関数を含む方程式・不等式、整数の桁数の求め方など、基礎事項をおさえる。	8	12	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。
7	微分法・積分法	数列の共通テスト問題に取り組みながら、接線の方程式、面積の求め方など、基礎事項をおさえる。	6	1	共通テスト演習	共通テスト問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。
8	数列	数列の共通テスト問題に取り組みながら、等差数列、等比数列、階差数列、いろいろな数列、漸化式など、基礎事項をおさえる。	2	2		
9	ベクトル	ベクトルの共通テスト問題に取り組みながら、平面ベクトル・空間ベクトルなど、基礎事項をおさえる。	8	3		

備考

教科名	数学	科目名	数学演習(理系数学II B)	単位数	2		
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別		
学習の到達目標	① 基礎的な知識の確認と技能の習得を図りつつ、来たる将来の大学受験に適応できる能力をつけていくための応用力を養っていく。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 解法をできるだけ増やす。						
教科書・教材等	三訂版 クリアー数学演習 IA II B(教研出版)、共通テスト実戦問題パック V 数学 II B(駿台文庫)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	図形と方程式	図形と方程式の二次試験の問題に取り組みながら、接線の方程式、方程式・不等式への応用など、基礎事項をおさえる。	6	10	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8
5	微分法	微分法の二次試験の問題に取り組みながら、接線の方程式、方程式・不等式への応用など、基礎事項をおさえる。	8	11	問題演習基礎力養成	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、解法を身につけ応用力をつける。	8
6	積分法	積分法の二次試験の問題に取り組みながら、定積分で表された関数、面積の求め方など、基礎事項をおさえる。	8	12	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
7	ベクトル	ベクトルの二次試験の問題に取り組みながら、平面ベクトル・空間ベクトルなど、基礎事項をおさえ。	6	1	共通テスト演習	共通テスト予想問題を制限時間を設定し、応用問題が解けるようにする。これまで解いた問題がすべて解けるようにする。	6
8	数列	数列の二次試験の問題に取り組みながら、等差数列、等比数列、階差数列、いろいろな数列、漸化式など、基礎事項をおさえる。	2	2			
9	数列	数列の二次試験の問題に取り組みながら、等差数列、等比数列、階差数列、いろいろな数列、漸化式など、基礎事項をおさえる。	8	3			

備考

教科名	数学	科目名	数学III	単位数	4
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 ② 大学入試に向けて、まず二次・私大の基礎となる問題を演習する。次に応用力、実践力を養う問題を演習することによって、各自が志望する大学に向けての受験対策が行える土台を築く。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ② 評定にあたっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価に偏した評定を行わない。 ③ 「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通じ、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。				
教科書・教材等	三訂版 クリアー数学演習III(数研出版)				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	I. 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数と図形(1) 3. 複素数と図形(2)	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	12	10	VII. 積分法 23. 不定積分 24. 定積分 25. 定積分で表された関数(1) 26. 定積分で表された関数(2)	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	16
5	II. 式と曲線 4. 2次曲線 5. 媒介変数表示 6. 極座標と極方程式 III. 関数 7. 分数関数・無理関数 8. 関数の性質	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	16	11	27. 定積分と級数 28. 定積分と不等式 29. 面積(1) 30. 面積(2)	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	16
6	IV. 極限 9. 数列の極限 10. 無限級数 11. 減化式と極限(1) 12. 減化式と極限(2)	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	16	12	31. 体積 32. 種々の量の計算	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	12
7	13. 関数の極限 14. 関数の連続 V. 導関数 15. 導関数 16. 高次導関数	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	12	1	受験大学問題演習	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	12
8	VI. 微分法の応用 17. 接線・法線 18. 関数の値の変化	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	4	2			
9	19. 最大・最小 20. 方程式への応用 21. 不等式への応用 22. 平均値の定理、速度と近似	国公立二次・私立大学の個別試験の問題を解くなかで、基礎の復習をし実践力につける。	16	3			

備考

教科名	理科	科目名	化学演習	単位数	4
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	①自然の事物・現象について理解する。 ②人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点評価方法	①知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ②思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③化学の基本的な概念や原理・法則の理解・・・小テストや定期考査で評価				
学習方法	①授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ②授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学(東京書籍)、化学図録(数研出版)、ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍) オリジナルテキスト、共通テスト実戦問題パックV(駿台文庫)、共通テスト分野別演習				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第4章 芳香族化合物 1. 芳香族炭化水素 2. 酸素を含む芳香族化合物 3. 窒素を含む芳香族化合物 4. 芳香族化合物の分離	・芳香族炭化水素の性質や構造を理解する。 ・フェノール類と芳香族カルボン酸の性質と構造を理解する。 ・芳香族アミンの構造とその性質を理解する。 ・分離法の原理を理解する。	12	10	共通テスト対策 個別試験対策	・共通テスト模試を演習する。 ・私立大学、国公立大学の過去問を演習する。	16
5	第6編 高分子化合物 第1章 高分子化合物 第2章 天然高分子化合物 1. 单糖類・二糖類・多糖類 2. アミノ酸 3. タンパク質	・高分子化合物の分類や特徴、合成方法を理解する。 ・单糖類、二糖類、单糖類の合成方法を理解する。 ・アミノ酸およびタンパク質の構造と特徴を検出法とともに理解する。	16	11	共通テスト対策	・共通テスト模試を演習する。	16
6	第3章 合成高分子化合物 1. 合成繊維 2. プラスチック 3. ゴム	・合成繊維となる合成高分子の構造や性質を理解する。 ・合成樹脂となる合成高分子の構造や性質を理解する。 ・天然ゴム・合成ゴムとなる高分子の構造や性質を理解する。	16	12			12
7	共通テスト対策 個別試験対策	・共通テスト模試を演習する。 ・私立大学、国公立大学の過去問を演習する。	12	1	個別試験対策	・私立大学、国公立大学の過去問を演習する。	12
8			4	2			
9			16	3			

備考

教科名	理科	科目名	物理演習	単位数	5		
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探求する能力や態度を高める。						
評価の観点評価方法	① 知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	物理基礎(数研出版)、物理(数研出版) センサー物理基礎+物理(啓林館)、共通テスト実践問題パックV(駿台文庫)			共通テスト試験分野別演習			
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第4編 電気と磁気 第1章 電場	・クーロンの法則、電場、電位、を理解し、点電荷がつくる電場電位を求めることができる。 ・コンデンサーの特性を理解し、直列、並列接続時の電気量を求めることができる。	15	10	大学入試共通テスト対策	・分野別演習を通して総復習を行うと共に、苦手分野を克服する ・大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。	20
5	第2章 電流	・複数の抵抗がある場合の合成抵抗の求め方や等価回路を作り方を理解し、複雑な回路でも抵抗のジュール熱を求めることができる。 ・キルヒホフの法則を理解し、抵抗を流れる電流を求めることができる。	20	11	大学入試共通テスト対策	・分野別演習を通して総復習を行う。 ・大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。	20
6	第3章 電流と磁場	・電流が作る磁場について理解し状況ごとに書くことができる。 ・電流が磁場から受ける力について理解し適切に公式を使える。 ・ローレンツ力を理解し、円運動する荷電粒子の運動を記述できる。	20	12	大学入試共通テスト対策	・分野別演習を通して総復習を行う。 ・大学入試共通試験実戦問題を演習し理解を深める。	15
7	第4章 電磁誘導と電磁場	・電磁誘導の法則を理解し、誘導起電力を考えながら回路に流れる電流を求めることができる。 ・交流電圧の発生原理を理解し、三角関数を使って記述できる。 ・インダクタンス、リアクタンスについて理解し、交流回路の電圧を求めることができる。	15	1	私立大学・国公立大学二次試験対策	・大学個別入試問題を演習し、各大学の傾向を知ることで、対策をたてる。	15
8	第5編 原子 第1章 電子と光	・比電荷、トムソンの実験、ミリカンの実験を考察し、電気素量の求め方を理解する。	5	2			
9	第2章 原子、電子と物質の性質	・光電効果やコンプトン効果を知ることで、光の波動性や粒子性を理解する。 ・ボアの量子条件からエネルギー準位を求めることができる。 ・放射性物質について知、放射性崩壊について理解を深める。	20	3			

備考

教科名	理科	科目名	生物演習	単位数	5
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	①自然の事物・現象について理解する。 ②人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点評価方法	①知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ②思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	①授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ②授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	生物(教研出版) 共通テスト実践問題パックV(駿台文庫)、共通テスト分野別演習、オリジナルテキスト				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第6章 植物の環境応答 1.植物の反応 2.成長の調節	・光刺激と植物の反応について理解する。 ・刺激に対する植物の応答に関与する物質について理解する。 解する。	15	10	大学入学共通テスト対策 その1 大学入学共通テスト対策 その2	・各分野ごとの内容を深めながら他の分野との関連づけて理解する。 ・教科書の欄外の内容に触れ理解深める。	20
5	3.花芽形成と発芽の調節 第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 1.個体群 2.個体群内と個体間の関係	・開花や発芽はどのようなしくみで行われているかを理解する。 ・同一種の個体からなる集団について理解する。 ・種内関係について理解する。	20	11	大学入学共通テスト対策 その3	・予想問題、過去問を用いて総合的に演習を行う。	20
6	3.異種個体群間の関係 4.生物群集 5.生態系における物質生産 6.生態系と生物多様性	・種間関係について理解する。 ・生態的地位について理解する。 ・生態系に取り込まれたエネルギーの利用について理解する。 ・多様性とそれに影響を与える要因について理解する。	20	12	大学入学共通テスト対策 その4	・予想問題、過去問を用いて総合的に演習を行う。	15
7	第8章 生命の起源と進化 1.生命の起源 2.生物の変遷 3.進化のしくみ	・原始地球での生命の起源について理解する。 ・地球環境の変化と生物の変遷について理解する。 ・現在考えられる進化のしくみについて理解する。	15	1	私立大学・国公立大学 二次試験対策	・各大学の過去問を中心に二次試験に対応できる力を養う。	15
8	第9章 生物の系統 1.生物の分類と系統 2.原核生物 3.原生生物	・多様な生物の分類方法を理解する。 ・原核生物について理解する。 ・藻類を中心に理解する。	5	2			
9	4.植物 5.動物 6.菌類	・進化の流れをとらえながら植物について理解する。 ・進化の流れをとらえながら動物について理解する。 ・独自の生物群を形成している菌類について理解する。	20	3			

備考

教科名	理科	科目名	理科基礎演習	単位数	4
対象	高校3年	履修形態	選択	授業形態	文理別
学習の到達目標	①自然の事物・現象について理解する。 ②人間と自然のかかわりについて考察し、自然に対する関心や探究心を養う。				
評価の観点評価方法	①知識・技能・・・定期考查、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ②思考・判断・表現・・・実力テストや定期考查で評価 ③主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	①授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ②授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍)、生物基礎(数研出版)、地学基礎(東京書籍) オリジナルテキスト、共通テスト実践問題パックV(駿台文庫)、共通テスト分野別演習				

年間授業計画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	大学入学共通テスト対策 その1	・知識問題を焦点に図やグラフを みながら基本的な概略を各分野 ごとに理解する。	12	10	大学入学共通テスト対策 その3	・教科書の欄外の内容に触れ理解 を深める。	16
5	大学入学共通テスト対策 その1	・知識問題を焦点に図やグラフを みながら基本的な概略を各分野 ごとに理解する。	16	11	大学入学共通テスト対策 その4	・予想問題、過去問を用いて総合 的に演習を行う。	16
6	大学入学共通テスト対策 その1	・知識問題を焦点に図やグラフを みながら基本的な概略を各分野 ごとに理解する。	16	12	大学入学共通テスト対策 その4	・予想問題、過去問を用いて総合 的に演習を行う。	12
7	大学入学共通テスト対策 その2	・各分野ごとの内容を深めながら 他の分野と関連づけて理解す る。	12	1	私立大学・国公立大学 二次試験対策	・各大学の過去問を中心に二次試 験に対応できる力を養う。	12
8	大学入学共通テスト対策 その2	・各分野ごとの内容を深めながら 他の分野と関連づけて理解す る。	4	2			
9	大学入学共通テスト対策 その3	・教科書の欄外の内容に触れ理解 を深める。	16	3			

備考

教科名 対象	保健体育 高校3年	科目名 履修形態	体育 必修	単位数 授業形態	3 一斉		
学習の到達目標	①運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになり、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						
評価の観点 評価方法	①忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ②各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	①集団行動 ②基礎的・合理的な運動の実践						
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体つくり運動 ※体育理論 豊かなスポーツライフの設計の仕方 陸上競技	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できる。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。	9	10	【選択①】 ・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようになる。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようになる。	12
5			12	11	【選択②】 ・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型		12
6	卓球	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようになる。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	12	12			4
7			9	1			0
8	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようになる。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	3	2			0
9			12	3			0

備考

教科名 対象	外国語 高校3年	科目名 履修形態	単位数 必修	授業形態	7 習熟度別		
学習の到達目標		① 一つ一つの文だけでなく、全体の意味を把握する読解力・思考力を身につける。 ② 読み取った内容を、自分の言葉で論理立てて表現できる記述力を身につける。 ③ 多様なテーマを通して、背景知識を身につける。 ④ 英語の文化をふまえ、自然な英訳力を身につける。 ⑤ 180wpm以上の英文を聞き、的確に内容をつかむ。 ⑥ αクラスは共通テストで筆記平均140点以上、リスニング平均70点以上の得点力を持つ。 ⑦ βクラスは旧帝大クラスの二次試験問題（筆記、リスニング含む）で平均7割以上の得点力を持つ。					
評価の観点 評価方法		① 文法事項や語彙力を身につけて正しく活用することができたり、説明・評論・物語・随筆などを読んで理解できているか。（知識・技能） ② 目的や場面、状況に応じて必要な情報を得たり、自分の考えや意見を伝えたりすることができるか。（思考・判断・表現） ③ 積極的に授業に参加し、意欲的に取り組んでいるか。（主体的に取り組む態度）					
学習方法		① 「目標解答時間」を参考にして解答した後、綿密な予習をして授業に臨む。 ② 段落ごとの要旨をつかみ、英文全体の論理展開を理解し、要約力をきたえる。 ③ 複雑な文構造の英文を、自然な表現で和訳できるように演習する。 ④ 直英作にならないよう英訳するための語彙、文法、構造の知識を授業を通じて身につける。 ⑤ 速読英単語（必修、上級）、GRAMMARMMASTERを活用し、語彙力、熟語力の定着を図る。 ⑥ 200wpm程度の英文を聞き、Shadowing, Dictationなどの技法を行い、T/F問題を確実に得点できるようにする。					
教科書・教材等	教科書 PROMINENCE English Communication III（東京書籍）、NEW FAVORITE English Expression II（東京書籍） 副教材 GRAMMARMMASTER（Z会出版）、大学入試過去問題 副教材 湯梨浜学園オリジナルテキスト	*教科書内容は履修済みのため補助的にのみ使用する。					
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	大学入試問題、湯梨浜オリジナル問題を用い、自宅での予習を前提とした徹底演習期	αクラスは大学入学共通テスト～中堅私立大学レベルの問題に慣れ確実に得点できるようにする。 βクラスは国公立大学二次試験レベル（中難易度～高難易度）を解きこみ、各大学の特徴を捉える。	24 10	自宅での予習を前提とした応用力および柔軟性育成期	語学の根幹である情報交換が、いかなる問題でも、各言語において「より自然」となるよう、その応用力、柔軟性を養う。	32	
5			32 11				
6			32 12				
7	夏期集中講座などを利用して、自宅での予習を前提とした各クラスの4技能の弱点を補う補修期	4月からこれまでの各クラスで、垣間見えた弱点を補修し、安定感のある英語力をつける。	24 1	各個人の大学入学共通テスト目標点に達するべく、時間配分を考慮して解答させる。	24		
8			8 2				
9	自宅での予習を前提とした応用力および柔軟性育成期	語学の根幹である情報交換が、いかなる問題でも、各言語において「より自然」となるよう、その応用力、柔軟性を養う。	32 3				

備考